

2021/2022シーズン

スキー場傷害報告書

2022（令和4）年2月1日～2月28日



全国スキー安全対策協議会

目 次

はじめに	2
1. 協力スキー場および調査期間	3
2. 用具の分類	3
3. 受傷者数および集計・分析の対象	3
4. スキーとスノーボードの受傷者割合	6
5. 用具別の受傷者割合	6
6. リフト等の輸送人員	7
7. 受傷率	8
8. スキー受傷率およびスノーボード受傷率	9
9. 受傷時間帯	14
10. 天候	14
11. 性別	16
12. 年齢	16
13. 技能	17
14. 受傷場所	18
15. 受傷原因	19
16. 傷害の部位と種類	21
17. 傷害程度	24
18. 頭を強く打った疑い	25
19. ヘルメットの着用状況	25
20. 保険の加入状況	26
21. 受傷時の行動	27
22. 受傷時のスピード	28
23. 雪面状況	28
24. 雪質	29
資料 1 2021/2022 シーズン スキー場内および管理区域外での死亡事故一覧表 (2022年3月31日現在)	30
資料 2 過去 19 年間のスノースポーツ死亡者数推移	32
資料 3 2022 年 2 月スキー場傷害調査用紙	33
資料 4 全国統一スキー場標識マーク等色刷一覧表	34

はじめに

このスキー場傷害報告書は、毎年全国スキー安全対策協議会より協力を依頼したスキー場の2月中のデータをもとに作成しています。

本調査は、休業中の1スキー場を除き、46スキー場の協力を得て実施することができました。各スキー場では、リフト・ゴンドラ等の新設・運休・廃止等シーズンによって状況が異なることがあるので、調査対象が同じであっても、その結果が必ずしも同じとは言えないかもしれません。しかし、そのような状況を考慮しても、我が国において、本調査のような大規模かつ長期にわたる経年的統計データは他に見られないことから、本調査には大切な意義があると考えられます。

2021/2022 シーズン（以下21/22と略）の調査結果の特徴として下記3項目が挙げられます。

1. 受傷率の上昇傾向

受傷率の変遷を見ると、スキーでは3シーズン前の水準に逆もどりし、スノーボードでは2シーズン連続で上昇し約10年前の水準に戻りつつあります。旅客輸送人員が減少しているにもかかわらず、スキーやスノーボードの受傷率の上昇には引き続き警戒が必要です。

2. 総輸送人員が下げ止まりから上昇傾向に

2022年2月の総輸送人員は2021年同期に比べ、スキーヤー：スノーボーダー：全体別に、+9.45%：+4.82%：+7.14%でした。総輸送人員は2019年から2021年の3シーズン連続で減少していましたが、4シーズンぶりに増加に転じました。これは、2年続いたコロナ禍からの脱却の徴候と推察され、以前の賑わいが戻ってくることを期待しています。

3. ヘルメット着用率の低下

スキーのヘルメット着用率は19/20シーズンまで連続で増加し、48.2%と5割に迫ってきました。同様にスノーボードのヘルメット着用率も、10シーズン前の5%から着実に伸び続け、19/20シーズンは24.4%と約1/4にまで達し、スノーボードの傷害発生率の低下に貢献してきました。しかし、20/21シーズンに一気に下落（スキーで42.3%（-5.9ポイント）、スノーボードで16.0%（-8.4ポイント））し、21/22シーズンは若干持ち直しましたが、3-4年前の低水準にとどまっています。

主なスキー外傷の部位や種類の傾向は例年と変わらず、頭部外傷がスキーで5位、スノーボードで4位と高位を占めることから、ヘルメット着用の啓蒙活動が必要です。

本調査の目的はスキー場の傷害調査であることから、スキー場より報告された調査票に含まれる傷害以外の急病等の疾病については、傷害発生率などの分析に影響するので集計から除いています。その結果、傷害報告数と、本報告書の傷害件数が異なる場合があることをご了承願います。なお、調査項目については、記入に要する労力や経費削減の観点から引き続き精査しております。

本報告書が、スキー場のリスクマネジメント・スキー学校等における安全指導の参考資料等として活用され、安全で楽しいスノースポーツ発展の一助となることを願っています。

本調査にご協力いただいた、受傷したスノースポーツ愛好者の方々、スキーパトロール隊や診療所等スキー場関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2022（令和4）年6月

全国スキー安全対策協議会
調査委員 富 樫 泰 一

1. 協力スキー場および調査期間

2022年2月1日から2月28日の1ヶ月間、全国46スキー場から報告があったデータをもとに集計・分析しました。協力スキー場及び受傷者数については表1、表2に示しました。

長年調査に協力いただいていた芸北国際スキー場は長期休業のため調査データ無し、瑞穂ハイランドは廃業となったため代わりにめがひらスキー場にご協力頂きました。

なお、志賀高原スキー場については、志賀高原エリアの8スキー場を総合したものですが、シーズンによって協力スキー場が異なる場合があります。

2. 用具の分類

用具は、2011/2012シーズンの調査用紙より次のように分類しました。

1) スキー

- ① アルペンスキー（従来のノーマルスキー、カービングスキー、ファンスキーやファットスキー、モーグルスキー、オールランドスキー等を含む）
- ② スキーボード（スキー板の長さ100cm未満のもの）
- ③ テレマークスキー
- ④ クロスカントリースキー
- ⑤ その他のスキー

2) スノーボード

- ① フリースタイルスノーボード
- ② アルペンスノーボード
- ③ その他のスノーボード

3) ソリ

- ① 子供用ソリ
- ② 腰掛ソリ（サドル付スノースケート等）
- ③ 立ち乗りソリ（スノースケート等）
- ④ その他のソリ（チューブを含む）

4) その他

3. 受傷者数および集計・分析の対象

46スキー場から送付されてきた調査票のうち、持病や体調不良など傷害ではないと思われるもの20件（駐車場やレストハウス等での事故、体調不良、持病の悪化、内科系疾患等）を除き2,073件を分析の対象としました。その受傷者内訳は、スキー780（表1）、スノーボード1,276件（表2）、ソリその他が17件（表2）でした。

なお、各項目における集計・分析は原則として無記入（欠損値）を除いて行いました。

表1. 用具別受傷者数（スキー）

番号	スキー場	受傷者合計	スキー					スキー小計
			アルペンスキー	スキーボード(100cm未満)	テレマークスキー	クロスカントリースキー	その他のスキー	
1	ニセコグラン・ヒラフ	19	11	0	0	0	0	11
2	朝里川温泉スキー場	8	5	1	0	0	0	6
3	サッポロテイネスキー場	20	12	0	0	0	0	12
4	札幌国際スキー場	21	8	0	0	0	1	9
5	ルスツリゾートスキー場	68	32	2	0	0	0	34
6	富良野スキー場	25	11	0	0	0	0	11
7	大鱈温泉スキー場	8	4	0	0	0	0	4
8	安比高原スキー場	53	30	0	0	0	0	30
9	みやぎ蔵王白石スキー場	17	8	1	0	0	0	9
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	25	7	0	0	0	0	7
11	猪苗代スキー場	86	18	0	1	0	1	20
12	猫魔スキー場	7	2	0	0	0	0	2
13	アルツ磐梯スキー場	49	12	0	0	0	1	13
14	会津高原たかつえスキー場	12	3	0	0	0	0	3
15	たざわ湖スキー場	21	11	0	0	0	0	11
16	蔵王温泉スキー場	81	44	1	0	0	0	45
17	苗場スキー場	55	27	0	0	0	1	28
18	石打丸山スキー場	43	11	2	0	0	1	14
19	舞子スノーリゾート	97	25	1	0	0	0	26
20	上越国際スキー場	58	24	1	0	0	0	25
21	六日町八海山スキー場	7	4	0	0	0	0	4
22	斑尾高原スキー場	50	13	0	0	0	0	13
23	野沢温泉スキー場	105	34	3	0	0	1	38
24	志賀高原スキー場	82	63	0	0	0	0	63
25	白馬五竜スキー場	96	37	0	0	0	0	37
26	白馬八方尾根スキー場	74	56	1	0	0	0	57
27	白馬岩岳スノーフィールド	50	24	0	0	0	0	24
28	樽池高原スキー場	78	28	1	0	0	1	30
29	立山山麓スキー場	18	8	0	1	0	0	9
30	白山一里野温泉スキー場	27	13	0	0	0	0	13
31	草津温泉スキー場	14	5	1	0	0	0	6
32	スノーパーク尾瀬戸倉	3	3	0	0	0	0	3
33	万座温泉スキー場	11	8	0	0	0	0	8
34	ハンターマウンテン塩原	80	19	0	0	0	0	19
35	ダイナランド	159	27	0	0	0	0	27
36	スキージャム勝山	67	15	0	0	0	0	15
37	箱館山スキー場	12	1	0	0	0	0	1
38	ハチ北高原スキー場	85	19	0	0	0	0	19
39	びわ湖バレイスキー場	45	9	1	0	0	0	10
40	奥神鍋スキー場	0	0	0	0	0	0	0
41	ハチ高原スキー場	25	11	0	0	0	0	11
42	だいせんホワイトリゾート	67	29	0	0	0	0	29
43	芸北国際スキー場							
44	恐羅漢スノーパーク	63	6	2	0	0	0	8
45	めがひらスキー場	30	9	1	0	0	0	10
46	ユートピアサイオト	38	5	0	0	0	1	6
47	久万スキーランド	14	0	0	0	0	0	0
	合計	2,073	751	19	2	0	8	780

表2. 用具別受傷者数（スノーボード・ソリ・その他）

番号	スキー場	受傷者 合計	(F)				(H)				(I=ソリ小計+その他)(人)	
			スノーボード			スノー ボード 小計	ソリ				ソリ 小計	その他
			フリー スタイル スノー ボード	アルペ ンス ノー ボード	その他 のス ノー ボード		子ども 用ソリ	腰掛ソ リ	立ち乗 りソリ	その他 のソリ		
1	ニセコグラン・ヒラフ	19	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
2	朝里川温泉スキー場	8	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
3	サップロテイネススキー場	20	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
4	札幌国際スキー場	21	12	0	0	12	0	0	0	0	0	0
5	ルスツリゾートスキー場	68	33	0	0	33	0	0	1	0	1	0
6	富良野スキー場	25	13	1	0	14	0	0	0	0	0	0
7	大鱧温泉スキー場	8	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
8	安比高原スキー場	53	22	1	0	23	0	0	0	0	0	0
9	みやぎ蔵王白石スキー場	17	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	25	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0
11	猪苗代スキー場	86	62	0	2	64	2	0	0	0	2	0
12	猫魔スキー場	7	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0
13	アルツ磐梯スキー場	49	35	0	0	35	0	0	1	0	1	0
14	会津高原たかつえスキー場	12	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0
15	たざわ湖スキー場	21	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0
16	蔵王温泉スキー場	81	36	0	0	36	0	0	0	0	0	0
17	苗場スキー場	55	27	0	0	27	0	0	0	0	0	0
18	石打丸山スキー場	43	29	0	0	29	0	0	0	0	0	0
19	舞子スノーリゾート	97	71	0	0	71	0	0	0	0	0	0
20	上越国際スキー場	58	33	0	0	33	0	0	0	0	0	0
21	六日町八海山スキー場	7	2	0	0	2	0	0	1	0	1	0
22	斑尾高原スキー場	50	37	0	0	37	0	0	0	0	0	0
23	野沢温泉スキー場	105	64	1	2	67	0	0	0	0	0	0
24	志賀高原スキー場	82	18	0	0	18	1	0	0	0	1	0
25	白馬五竜スキー場	96	58	1	0	59	0	0	0	0	0	0
26	白馬八方尾根スキー場	74	16	0	0	16	0	0	1	0	1	0
27	白馬岩岳スノーフィールド	50	25	0	0	25	0	0	0	1	1	0
28	拇池高原スキー場	78	47	0	0	47	0	0	1	0	1	0
29	立山山麓スキー場	18	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0
30	白山一里野温泉スキー場	27	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0
31	草津温泉スキー場	14	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
32	スノーパーク尾瀬戸倉	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	万座温泉スキー場	11	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
34	ハンターマウンテン塩原	80	60	0	0	60	1	0	0	0	1	0
35	ダイナランド	159	132	0	0	132	0	0	0	0	0	0
36	スキージャム勝山	67	52	0	0	52	0	0	0	0	0	0
37	箱館山スキー場	12	9	0	0	9	2	0	0	0	2	0
38	ハチ北高原スキー場	85	65	0	0	65	1	0	0	0	1	0
39	びわ湖パレイススキー場	45	32	0	0	32	2	0	1	0	3	0
40	奥神鍋スキー場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	ハチ高原スキー場	25	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0
42	だいせんホワイトリゾート	67	37	1	0	38	0	0	0	0	0	0
43	芸北国際スキー場											
44	恐羅漢スノーパーク	63	55	0	0	55	0	0	0	0	0	0
45	めがひらスキー場	30	20	0	0	20	0	0	0	0	0	0
46	ユートピアサイオト	38	31	0	0	31	1	0	0	0	1	0
47	久万スキーランド	14	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0
	合計	2,073	1,267	5	4	1,276	10	0	6	1	17	0

4. スキーとスノーボードの受傷者割合

図1は過去5年間のスキー及びスノーボードの受傷者の割合を示したものです（ソリ等その他を除いて集計）。受傷者割合について過去3シーズンは大きな変化がなかったものの、20/21シーズンはスキー33.5%、スノーボード66.5%と、例年とは大きく異なる結果となり、21/22シーズンも、スキー37.9%、スノーボード62.1%と若干持ち直したものの、例年とは大きく異なりますが、その原因は分かりません。

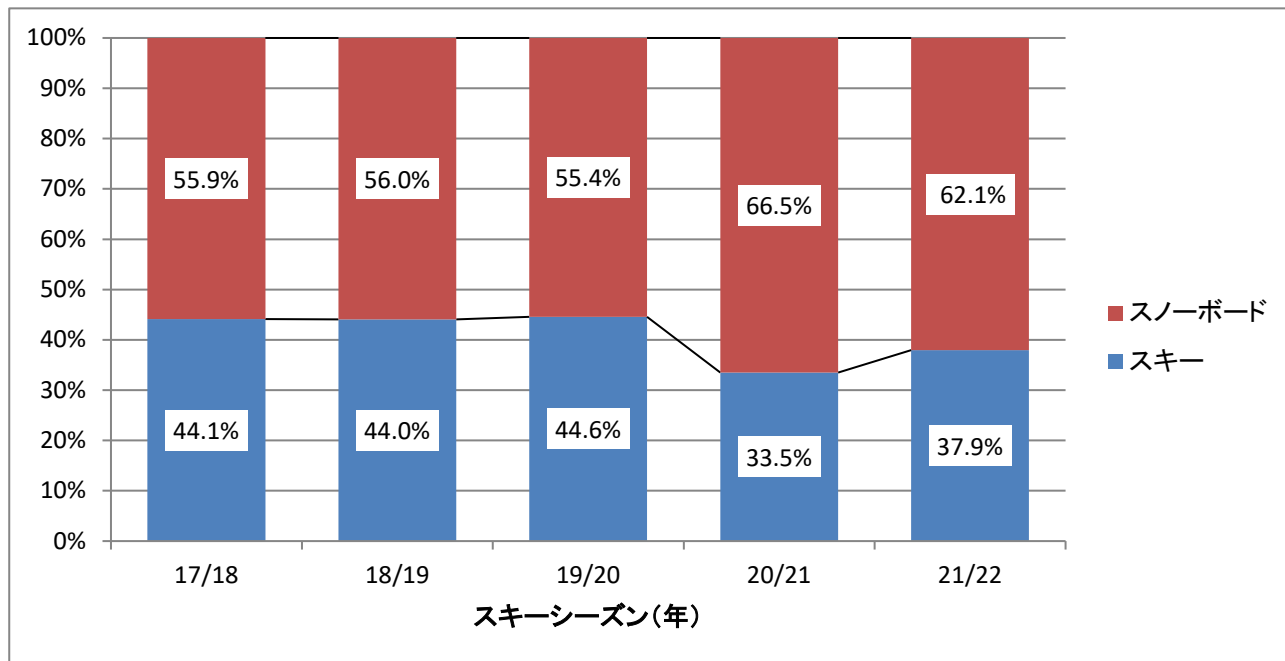


図1. スキーとスノーボードの受傷者割合の推移

5. 用具別の受傷者割合

図2は受傷者の使用用具の割合です。21/22シーズンは昨シーズンと比べ、アルペンスキーが5ポイント増加、フリースタイルスノーボードが5ポイント減少しました。

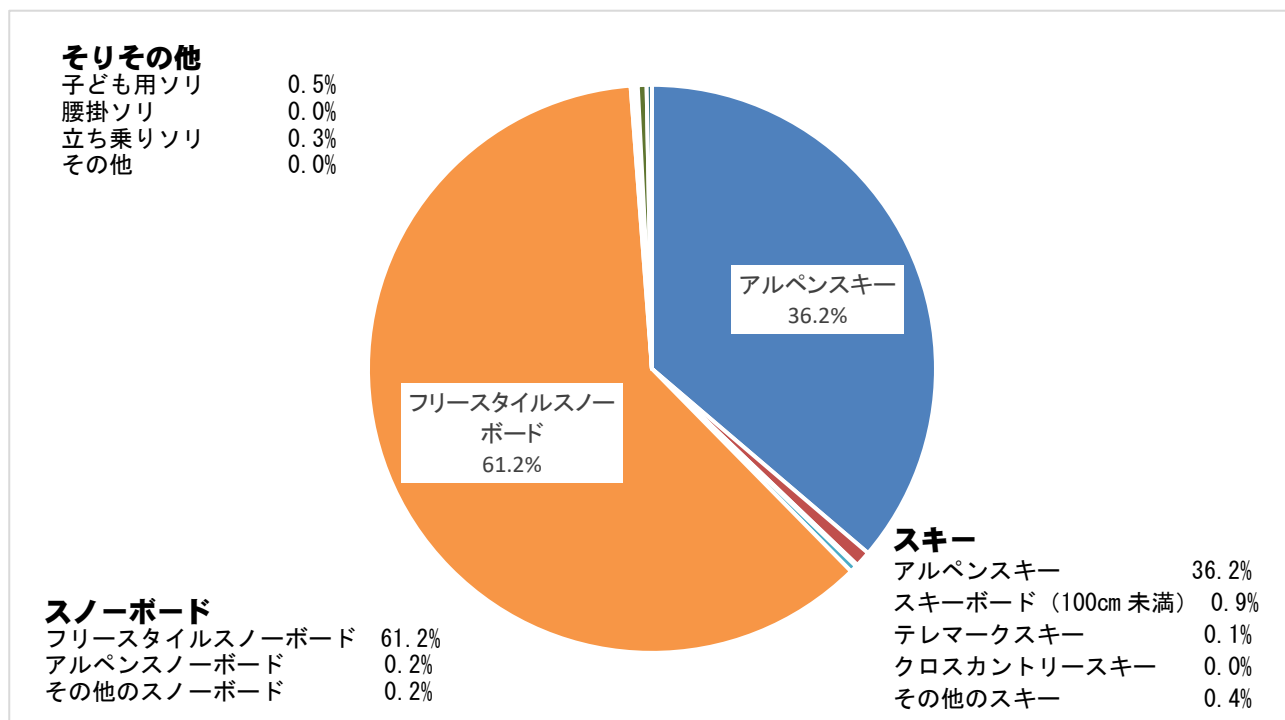


図2. 用具別受傷者の割合

表3は、用具別受傷者について過去5年間の推移を表したものです。21/22シーズンの受傷者数は19/20シーズンより0.4ポイント減少しました。

表3. 用具別受傷者数の推移（人）

調査年	スキー					スノーボード			ソリ その他	計
	アルペン	スキー ボード	テレマー ク	クロカン	その他	フリース スタイル	アルペン	その他		
2018年	1,313	13	4	0	9	1,689	4	3	18	3,053
	43.0%	0.4%	0.1%	0.0%	0.3%	55.3%	0.1%	0.1%	0.6%	100.0%
2019年	1,531	26	2	3	26	1,985	18	17	16	3,624
	42.2%	0.7%	0.1%	0.1%	0.7%	54.8%	0.5%	0.5%	0.4%	100.0%
2020年	1,137	11	4	0	18	1,440	10	8	8	2,636
	43.1%	0.4%	0.2%	0.0%	0.7%	54.6%	0.4%	0.3%	0.3%	100.0%
2021年	645	23	6	2	15	1,362	9	1	12	2,075
	31.1%	1.1%	0.3%	0.1%	0.7%	65.6%	0.4%	0.0%	0.6%	100.0%
2022年	751	19	2	0	8	1,267	5	4	17	2,073
	36.2%	0.9%	0.1%	0.0%	0.4%	61.1%	0.2%	0.2%	0.8%	100.0%

6. リフト等の輸送人員

スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員は、各スキー場から報告があった2月の輸送延べ人員とスキーヤーとスノーボーダーの入り込みの比率から推計したものです。

表4はスキーヤーとスノーボーダーの過去5年間の推計輸送人員の推移です。2022年2月の輸送延べ人員は、前年度と比べて7.14ポイント増加しました。内訳はスキーヤーが9.45ポイント、スノーボーダーが4.82ポイント増加しました。総輸送人員は2019年から2021年の3シーズン連続で減少していましたが、4シーズンぶりに増加に転じました。これは、2年続いたコロナ禍からの脱却の徴候と言えるかどうかは分かりませんが、以前のスキー場の賑わいが戻ってくることを期待しています。

表4. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移（人）

調査年 (2月)	スキーヤー	対前年比	スノーボーダー	対前年比	総輸送人員	対前年比
2018年	18,455,657	18.97%	13,574,169	-0.87%	32,029,826	9.67%
2019年	17,152,397	-7.06%	13,630,601	0.42%	30,782,998	-3.89%
2020年	14,529,151	-15.29%	12,223,262	-10.32%	26,757,377	-13.08%
2021年	10,088,938	-30.56%	9,851,985	-19.40%	19,945,348	-25.46%
2022年	11,042,189	9.45%	10,326,871	4.82%	21,369,060	7.14%

※ 調査年により協力スキー場数に変動があります。

図3はスキーヤーとスノーボーダーの過去5年間の推計輸送人員の割合です。21/22シーズンのスキーヤー・スノーボーダー比率は、20/21シーズンと同率でした。

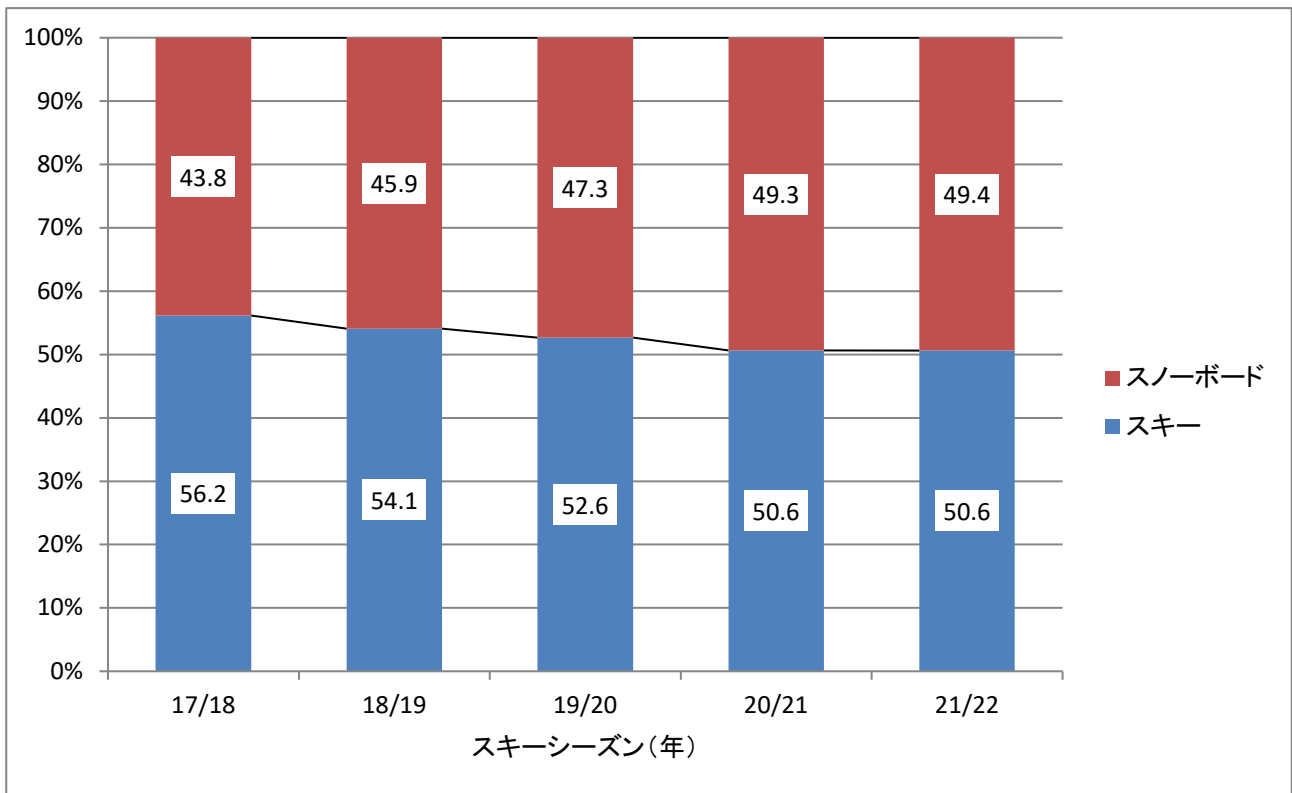


図3. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合の推移

7. 受傷率

過去10年間の、スキー・スノーボード・ソリその他を合わせた受傷率の推移を図4に示しました。17/18シーズンは過去10年間で最高値(0.0116%)を示しましたが、18/19シーズンは0.0093に減少し、その後3シーズン連続して増加しています。

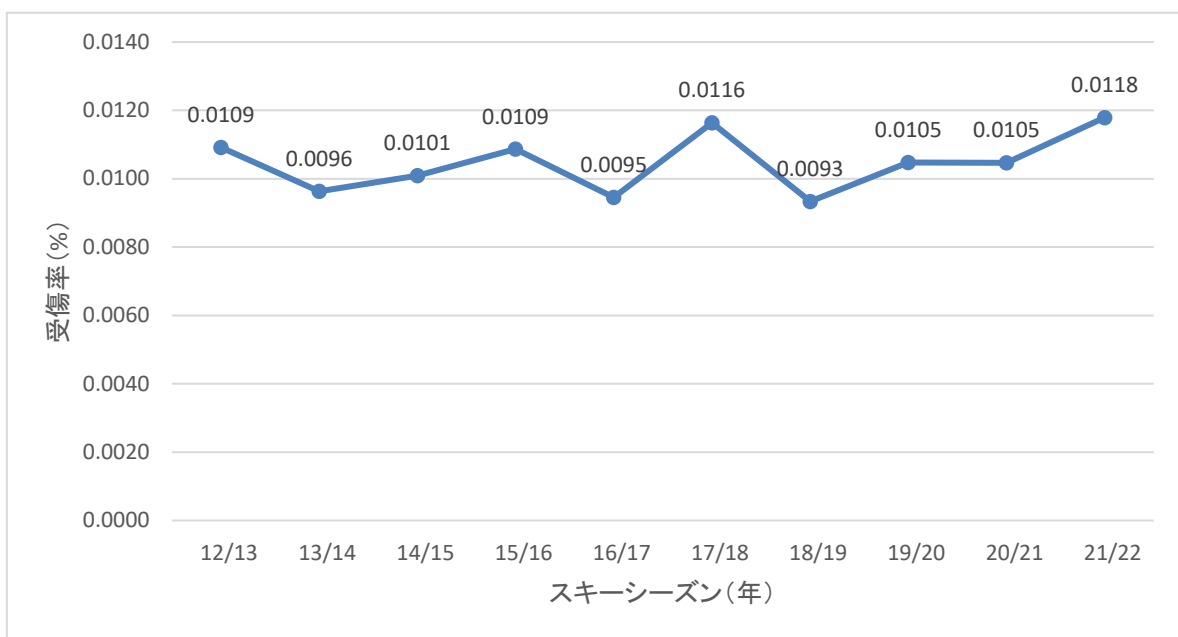


図4. 過去10年間の受傷率の推移

8. スキー受傷率およびスノーボード受傷率

図 5-1 に過去 10 年間のスキー及びスノーボードの受傷率の推移を示しました。

スキーは、17/18 シーズンに最低値 (0.0072%) を記録した翌シーズンに一気に上昇し、その後減少傾向が続いていましたが、21/22 シーズンは 0.0094% とまた増加に転じました。スノーボードは、19/20 シーズンに過去最低値 (0.0105%) を記録しましたが、今シーズンは 0.0141% と、2 シーズン連続で増加しました。

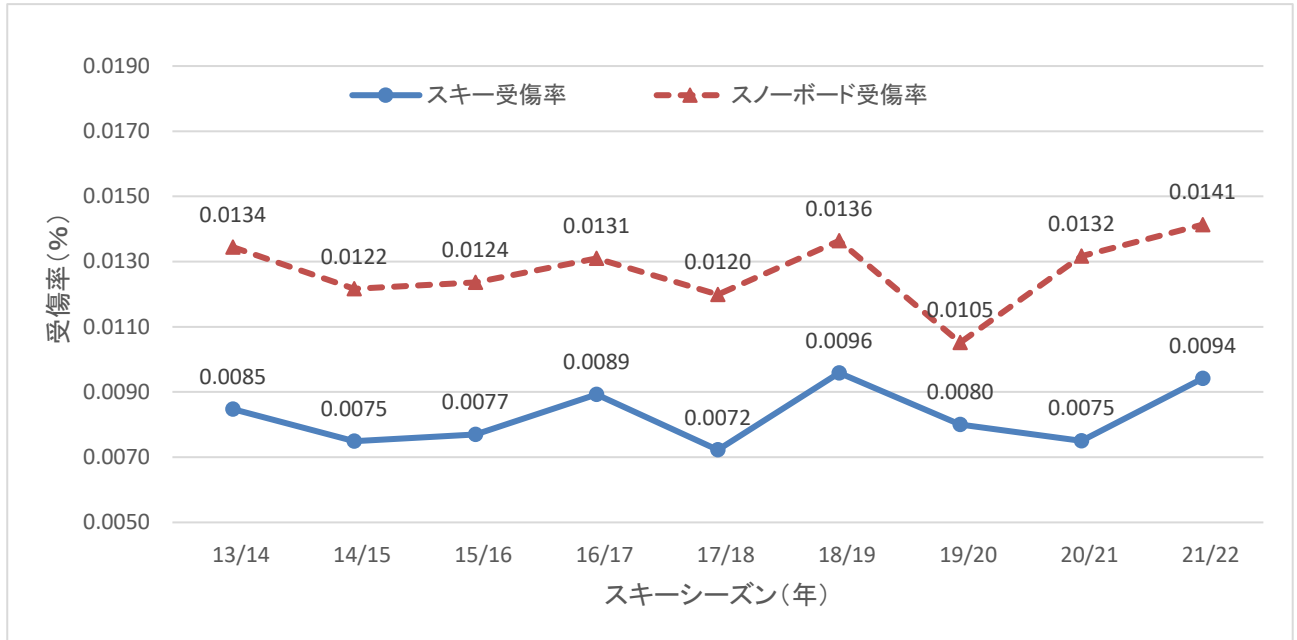


図 5-1. スキー及びスノーボード受傷率の推移

図 5-2 に、過去 23 年間のスキー及びスノーボードの受傷率の推移を示しました。スノーボードの受傷率は明らかな減少傾向 (-0.02%/年) を示しているものの、スキーはほぼ横ばいで微増傾向 (受傷率の改善が見られない) であることから、新たな対策が必要であることがうかがえます。

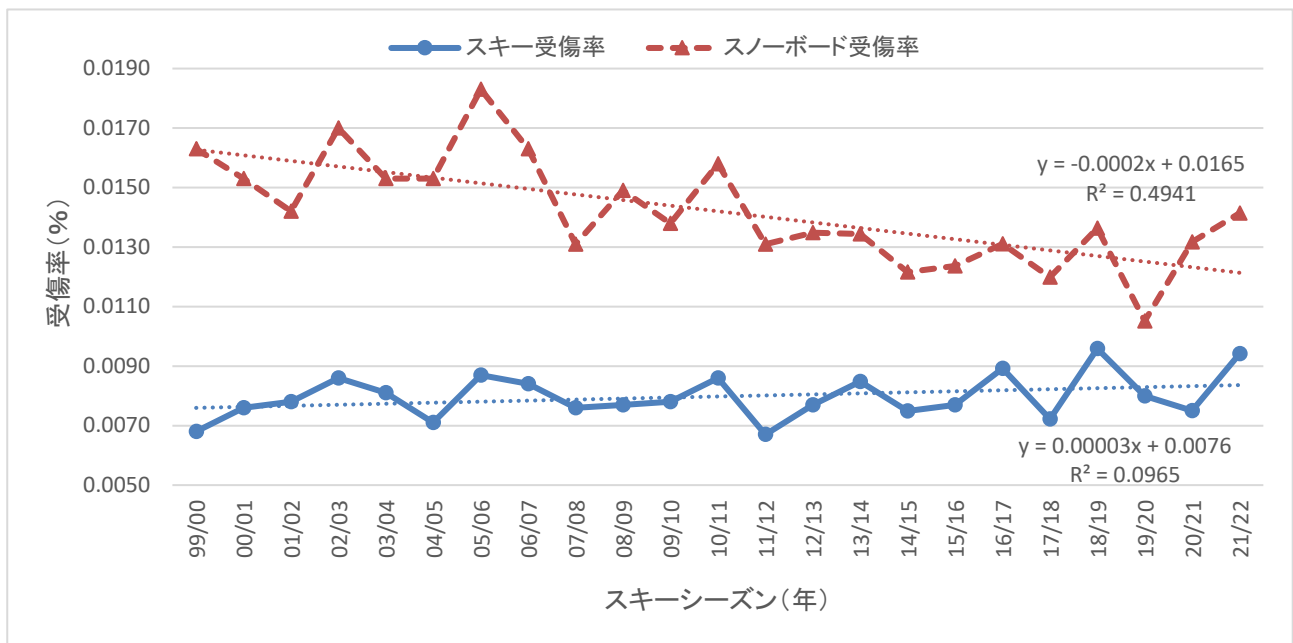


図 5-2. スキー・スノーボード受傷率の推移 (過去 22 年間)

図 5-3 は、輸送人員を横軸に、傷害者数を縦軸にプロット・直線回帰分析したものです。直線回帰寄与率 (R^2) より、受傷者数の変動は輸送人員の変動から、スキーヤーで 72.3%、スノーボーダーで 64.1% 説明できることを表しています。回帰式より、スキーでは輸送人員 100 万人あたり傷害発生数 72 人、スノーボードでは同じく 150 人となり、スノーボードはスキーに比べ約 2 倍の傷害発生数が推計されます。尚、赤（スノーボード）の破線で囲まれたスキー場は、直線回帰式から大きく外れており、スキー場特有の問題点を抱えているか、特別な対策が必要なスキー場と考えられます。

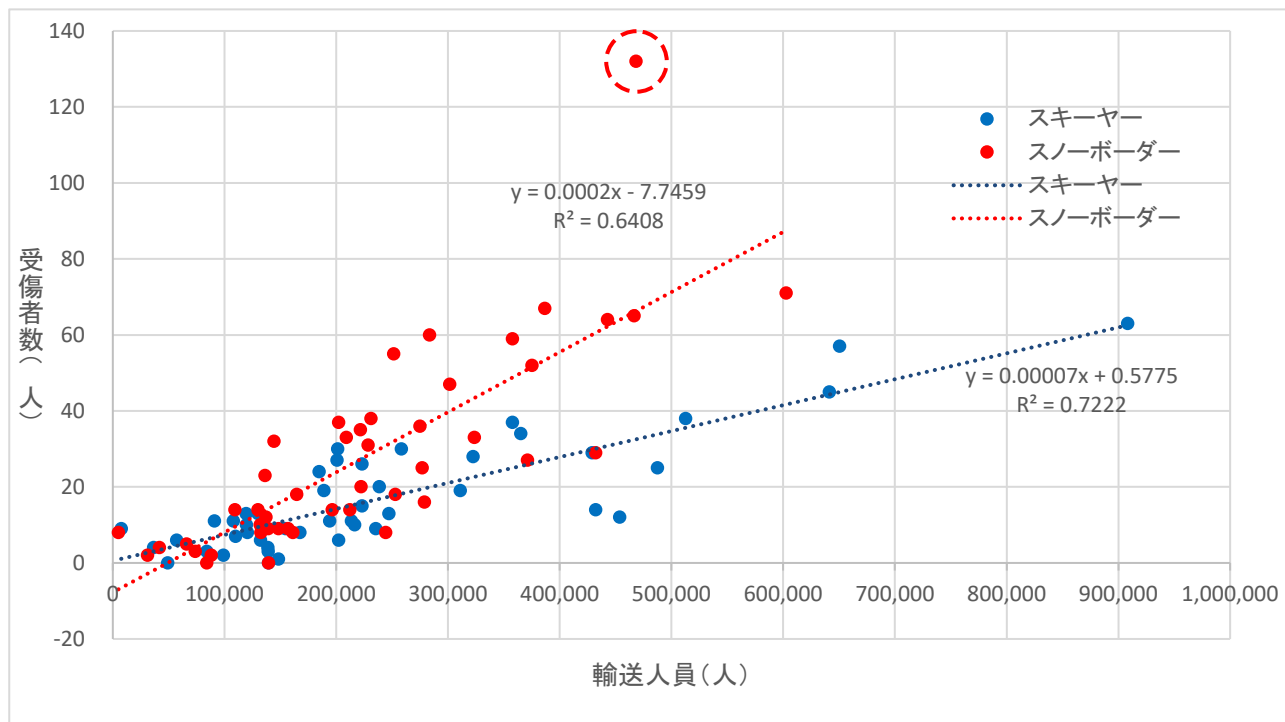


図 5-3. 輸送人員と傷害者数

本報告書では、受傷率をリフト・ゴンドラ等の輸送延べ人員に対する受傷者数の割合として計算しています。例えば受傷率 0.010% とは、輸送人員 1 万人あたり受傷者 1 人を指し、10 万人あたりでは 10 人、100 万人あたりでは 100 人となります。スキー場来場者は 1 日平均 10 回リフトやゴンドラを利用すると一般的に言われてきましたが、その根拠資料を得るため、19/20 シーズンに 8 スキー場の輸送人員と来場人員数の提供を得て、平均乗車回数を算出しました。その結果、平均乗車回数は 9.7 回/来場者となり、「1 日平均 10 回」は妥当な数値であることが確かめられました。従って本報告書の受傷率を来場者数に対する受傷率に読み替える場合は、10 倍すれば良いことがわかります。

スキー受傷率は、スキーヤー推計輸送人員に対するスキー受傷者数の割合、スノーボード受傷率は、スノーボーダー推計輸送人員に対するスノーボード受傷者数の割合を示したものです。

なお、提出された集計表に書かれた傷害件数と調査用紙（個票）の数が一致しないスキー場やケガ以外の疾病などが含まれている場合があるので、受傷率の計算は可能な限り実際の傷害件数を採用しました。したがって、スキー場から報告された傷害件数と本報告書の傷害件数とが異なる場合がありますのでご了承ください。

表 5 は輸送人員、入り込み比率、及びスキー・スノーボード別推計輸送人員です。

各スキー場の受傷者数と受傷率は、表 6 に示しました。受傷率は、総輸送人員に対する受傷者数の割合を示したものです。

表 7 は、スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移を示したものです。

表 5. 輸送人員，入り込み比率及びスキー・スノーボード別推計輸送人員

番号	スキー場	(A)	(B)		(C)	(D=AxB)	(E=AxC)
		輸送人員(人) 2022年2月	入り込み比率(%)		推計輸送人員(人)	スキーヤー	ボーダー
			スキーヤー	ボーダー			
1	ニセコグラン・ヒラフ	374,648	57	43	213,549	161,099	
2	朝里川温泉スキー場	220,136	60	40	132,082	88,054	
3	サッポロテイネススキー場	697,612	65	35	453,448	244,164	
4	札幌国際スキー場	291,073	53	47	154,269	136,804	
5	ルスツリゾートスキー場	688,434	53	47	364,870	323,564	
6	富良野スキー場	302,991	64	36	193,914	109,077	
7	大鱈温泉スキー場	180,235	77	23	138,601	41,634	
8	安比高原スキー場	394,183	66	35	258,190	135,993	
9	みやぎ蔵王白石スキー場	12,428	60	40	7,457	4,971	
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	274,203	40	60	109,681	164,522	
11	猪苗代スキー場	681,000	35	65	238,350	442,650	
12	猫魔スキー場	164,482	60	40	98,689	65,793	
13	アルツ磐梯スキー場	340,543	35	65	119,190	221,353	
14	会津高原たかつえスキー場	277,731	50	50	138,866	138,866	
15	たざわ湖スキー場	239,635	45	55	107,836	131,799	
16	蔵王温泉スキー場	916,000	70	30	641,200	274,800	
17	苗場スキー場	693,239	47	54	322,356	370,883	
18	石打丸山スキー場	863,870	50	50	431,935	431,935	
19	舞子スノーリゾート	825,139	27	73	222,788	602,351	
20	上越国際スキー場	696,095	70	30	487,267	208,829	
21	六日町八海山スキー場	67,220	54	46	36,299	30,921	
22	斑尾高原スキー場	448,964	55	45	246,930	202,034	
23	野沢温泉スキー場	899,001	57	43	512,431	386,570	
24	志賀高原スキー場	1,160,680	78	22	908,116	252,564	
25	白馬五竜スキー場	715,133	50	50	357,567	357,567	
26	白馬八方尾根スキー場	928,893	70	30	650,225	278,668	
27	白馬岩岳スノーフィールド	461,125	40	60	184,450	276,675	
28	樽池高原スキー場	502,453	40	60	200,981	301,472	
29	立山山麓スキー場	391,821	60	40	235,093	156,728	
30	白山一里野温泉スキー場	259,691	50	50	129,846	129,846	
31	草津温泉スキー場	334,367	60	40	201,958	132,409	
32	スノーパーク尾瀬戸倉	168,050	50	50	84,025	84,025	
33	万座温泉スキー場	194,037	62	38	120,303	73,734	
34	ハンターマウンテン塩原	472,147	40	60	188,859	283,288	
35	ダイナランド	668,694	30	70	200,608	468,086	
36	スキージャム勝山	597,866	37	63	223,004	374,862	
37	箱館山スキー場	296,018	50	50	148,009	148,009	
38	ハチ北高原スキー場	777,230	40	60	310,892	466,338	
39	びわ湖バレイスキー場	360,356	60	40	216,214	144,142	
40	奥神鍋スキー場	278,185	50	50	139,093	139,093	
41	ハチ高原スキー場	302,891	30	70	90,867	212,024	
42	だいせんホワイトリゾート	659,631	65	35	428,760	230,871	
43	芸北国際スキー場						
44	恐羅漢スノーパーク	418,570	40	60	167,428	251,142	
45	めがひらスキー場	341,500	35	65	119,525	221,975	
46	ユートピアサイオト	285,471	20	80	57,094	228,377	
47	久万スキーランド	245,389	20	80	49,078	196,311	
	合 計	21,369,060	51	49	11,042,189	10,326,871	

表 6. 受傷率

番号	スキー場	(F)	(G)	(H)	(I)	(F/Ax100)	(G/Dx100)	(H/Ex100)
		受傷者数(人)				受傷率(%)		
		合計	スキーヤー	ボーダー	その他	合計	スキーヤー	ボーダー
1	ニセコグラン・ヒラフ	19	11	8	0	0.0051	0.0052	0.0050
2	朝里川温泉スキー場	8	6	2	0	0.0036	0.0045	0.0023
3	サッポロテイネススキー場	20	12	8	0	0.0029	0.0026	0.0033
4	札幌国際スキー場	21	9	12	0	0.0072	0.0058	0.0088
5	ルスツリゾートスキー場	68	34	33	1	0.0099	0.0093	0.0102
6	富良野スキー場	25	11	14	0	0.0083	0.0057	0.0128
7	大鱈温泉スキー場	8	4	4	0	0.0044	0.0029	0.0096
8	安比高原スキー場	53	30	23	0	0.0134	0.0116	0.0169
9	みやぎ蔵王白石スキー場	17	9	8	0	0.1368	0.1207	0.1609
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	25	7	18	0	0.0091	0.0064	0.0109
11	猪苗代スキー場	86	20	64	2	0.0126	0.0084	0.0145
12	猫魔スキー場	7	2	5	0	0.0043	0.0020	0.0076
13	アルツ磐梯スキー場	49	13	35	1	0.0144	0.0109	0.0158
14	会津高原たかつえスキー場	12	3	9	0	0.0043	0.0022	0.0065
15	たざわ湖スキー場	21	11	10	0	0.0088	0.0102	0.0076
16	蔵王温泉スキー場	81	45	36	0	0.0088	0.0070	0.0131
17	苗場スキー場	55	28	27	0	0.0079	0.0087	0.0073
18	石打丸山スキー場	43	14	29	0	0.0050	0.0032	0.0067
19	舞子スノーリゾート	97	26	71	0	0.0118	0.0117	0.0118
20	上越国際スキー場	58	25	33	0	0.0083	0.0051	0.0158
21	六日町八海山スキー場	7	4	2	1	0.0104	0.0110	0.0065
22	斑尾高原スキー場	50	13	37	0	0.0111	0.0053	0.0183
23	野沢温泉スキー場	105	38	67	0	0.0117	0.0074	0.0173
24	志賀高原スキー場	82	63	18	1	0.0071	0.0069	0.0071
25	白馬五竜スキー場	96	37	59	0	0.0134	0.0103	0.0165
26	白馬八方尾根スキー場	74	57	16	1	0.0080	0.0088	0.0057
27	白馬岩岳スノーフィールド	50	24	25	1	0.0108	0.0130	0.0090
28	桐池高原スキー場	78	30	47	1	0.0155	0.0149	0.0156
29	立山山麓スキー場	18	9	9	0	0.0046	0.0038	0.0057
30	白山一里野温泉スキー場	27	13	14	0	0.0104	0.0100	0.0108
31	草津温泉スキー場	14	6	8	0	0.0042	0.0030	0.0060
32	スノーパーク尾瀬戸倉	3	3	0	0	0.0018	0.0036	0.0000
33	万座温泉スキー場	11	8	3	0	0.0057	0.0066	0.0041
34	ハンターマウンテン塩原	80	19	60	1	0.0169	0.0101	0.0212
35	ダイナランド	159	27	132	0	0.0238	0.0135	0.0282
36	スキージャム勝山	67	15	52	0	0.0112	0.0067	0.0139
37	箱館山スキー場	12	1	9	2	0.0041	0.0007	0.0061
38	ハチ北高原スキー場	85	19	65	1	0.0109	0.0061	0.0139
39	びわ湖バレイスキー場	45	10	32	3	0.0125	0.0046	0.0222
40	奥神鍋スキー場	0	0	0	0	0.0000	0.0000	0.0000
41	ハチ高原スキー場	25	11	14	0	0.0083	0.0121	0.0066
42	だいせんホワイトリゾート	67	29	38	0	0.0103	0.0070	0.0165
43	芸北国際スキー場							
44	恐羅漢スノーパーク	63	8	55	0	0.0151	0.0048	0.0219
45	めがひらスキー場	30	10	20	0	0.0088	0.0084	0.0090
46	ユートピアサイト	38	6	31	1	0.0133	0.0105	0.0136
47	久万スキーランド	14	0	14	0	0.0057	0.0000	0.0071
	合計	2,073	780	1,276	17	0.0118	0.0094	0.0141

表7. スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移
(スキーヤーの比率：スノーボーダーの比率)

番号	スキー場	2018年2月	2019年2月	2020年2月	2021年2月	2022年2月
1	ニセコグラン・ヒラフ	60 : 40	60 : 40	60 : 40	50 : 50	57 : 43
2	朝里川温泉スキー場	60 : 40	80 : 40	80 : 20	60 : 40	60 : 40
3	サップロテイネススキー場	65 : 35	65 : 35	65 : 35	70 : 30	65 : 35
4	札幌国際スキー場	53 : 47	53 : 47	54 : 46	52 : 48	53 : 47
5	ルスツリゾートスキー場	60 : 40	56 : 40	57 : 43	45 : 55	53 : 47
6	富良野スキー場	84 : 17	69 : 17	67 : 33	66 : 34	64 : 36
7	大鱈温泉スキー場	88 : 12	89 : 12	87 : 13	82 : 18	77 : 23
8	安比高原スキー場	71 : 30	66 : 30	63 : 37	61 : 39	66 : 35
9	みやぎ蔵王白石スキー場	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	50 : 50	40 : 50	40 : 60	40 : 60	40 : 60
11	猪苗代スキー場	60 : 40	60 : 40	60 : 40	35 : 65	35 : 65
12	猫魔スキー場	50 : 50	50 : 50	50 : 50	45 : 55	60 : 40
13	アルツ磐梯スキー場	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	35 : 65
14	会津高原たかつえスキー場	50 : 50	60 : 50	60 : 40	40 : 60	50 : 50
15	たざわ湖スキー場	70 : 30	60 : 30	60 : 40	60 : 40	45 : 55
16	蔵王温泉スキー場	67 : 33	68 : 33	67 : 33	70 : 30	70 : 30
17	苗場スキー場	52 : 48	53 : 48	50 : 49	54 : 46	47 : 54
18	石打丸山スキー場	50 : 50	50 : 50	55 : 45	50 : 50	50 : 50
19	舞子スノーリゾート	39 : 61	40 : 61	40 : 60	40 : 60	27 : 73
20	上越国際スキー場	60 : 40	70 : 40	70 : 30	70 : 30	70 : 30
21	六日町八海山スキー場		57 : 65	63 : 37	61 : 39	54 : 46
22	斑尾高原スキー場	55 : 45	55 : 45	40 : 60	55 : 45	55 : 45
23	野沢温泉スキー場	65 : 35	64 : 35	67 : 33	66 : 34	57 : 43
24	志賀高原スキー場	71 : 29	65 : 29	72 : 28	69 : 31	78 : 22
25	白馬五竜スキー場	60 : 40	60 : 40	35 : 65	50 : 50	50 : 50
26	白馬八方尾根スキー場	70 : 30	70 : 30	65 : 35	75 : 25	70 : 30
27	白馬岩岳スノーフィールド	51 : 49	55 : 49	50 : 50	40 : 60	40 : 60
28	柵池高原スキー場	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
29	立山山麓スキー場	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40
30	白山一里野温泉スキー場	70 : 30	60 : 30	60 : 40	60 : 40	50 : 50
31	草津温泉スキー場	71 : 29	65 : 29	64 : 36	66 : 34	60 : 40
32	スノーパーク尾瀬戸倉	45 : 55	45 : 55	60 : 40	50 : 50	50 : 50
33	万座温泉スキー場	70 : 30	67 : 30	68 : 32	71 : 29	62 : 38
34	ハンターマウンテン塩原	30 : 70	30 : 70	25 : 75	30 : 70	40 : 60
35	ダイナランド	35 : 65	35 : 65	30 : 70	30 : 70	30 : 70
36	スキージャム勝山	50 : 50	46 : 50	45 : 55	40 : 60	37 : 63
37	箱館山スキー場	71 : 29	73 : 29	60 : 40	40 : 60	50 : 50
38	ハチ北高原スキー場	40 : 60	35 : 60	40 : 60	32 : 68	40 : 60
39	びわ湖パレイスキー場	43 : 57	36 : 57	41 : 59	41 : 59	60 : 40
40	奥神鍋スキー場	50 : 50	60 : 50	50 : 50	50 : 50	50 : 50
41	ハチ高原スキー場	60 : 40	50 : 40	50 : 50	30 : 70	30 : 70
42	だいせんホワイトリゾート	72 : 28	65 : 28	64 : 36	63 : 37	65 : 35
43	芸北国際スキー場	30 : 70	30 : 70	30 : 70		
44	恐羅漢スノーパーク	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
45	瑞穂ハイランド→めがひらスキー場	40 : 60	28 : 60	20 : 80	30 : 70	35 : 65
46	ユートピアサイオト	60 : 40	30 : 40	20 : 80	30 : 70	20 : 80
47	久万スキーランド	68 : 32	33 : 32	30 : 70	20 : 80	20 : 80
	平均	56.6 : 43.4	54.1 : 43.8	52.6 : 47.3	50.6 : 49.4	50.6 : 49.4

9. 受傷時間帯

図6は時刻毎に発生した受傷数を示したものです。

スキーでは10時台が最も多く、次いで11時台でしたが、10～14時台までほぼまんべんなく受傷していました。スノーボードでは、14時台が最も多く、次いで11時台でした。

合計では11時台と14時台に多発しています。このように時間帯による受傷数に2峰性が観られる原因として、スキー場の混雑、雪質や雪の状態の変化、疲労など人的・環境的要因が影響しているものと考えられます。12時台と13時台が減少しているのは、昼食時間帯のためと考えられます。受傷数が多い時間帯（特に昼食時間帯前と14時台）は注意して行動しましょう。

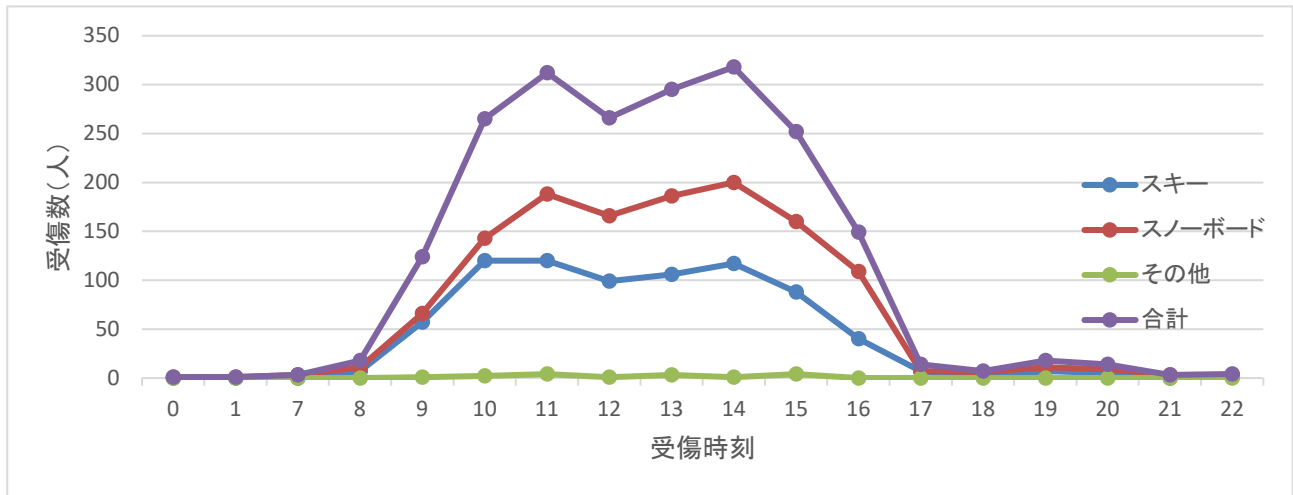


図6. 受傷時間帯

10. 天候

図7-1は受傷時の天候です。晴が46.8%と約5割弱を占めました。晴れた日にはスキー場の入込が多くなり、スピードも出やすくなるので、天候が傷害発生の間接的原因の一つと思われます。

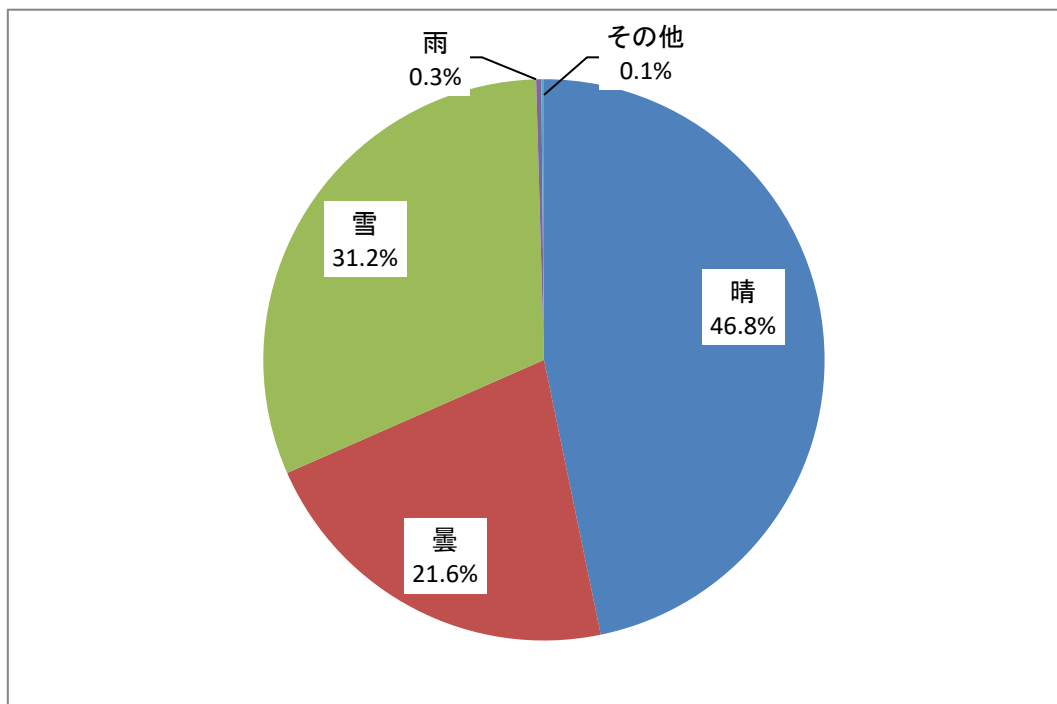


図7-1. 天候

図 7-2 は、2月の傷害発生数と天候の内訳を示しています。傷害発生数について、休日は平日の2~3倍多く、日曜日よりは土曜日が多く、休日が晴天だと傷害発生数も多いことがわかります。21/22シーズン2月の祝日（建国記念日）は3連休となり晴天と重なったため、連休中日の12日は傷害発生数がピークを示しました。

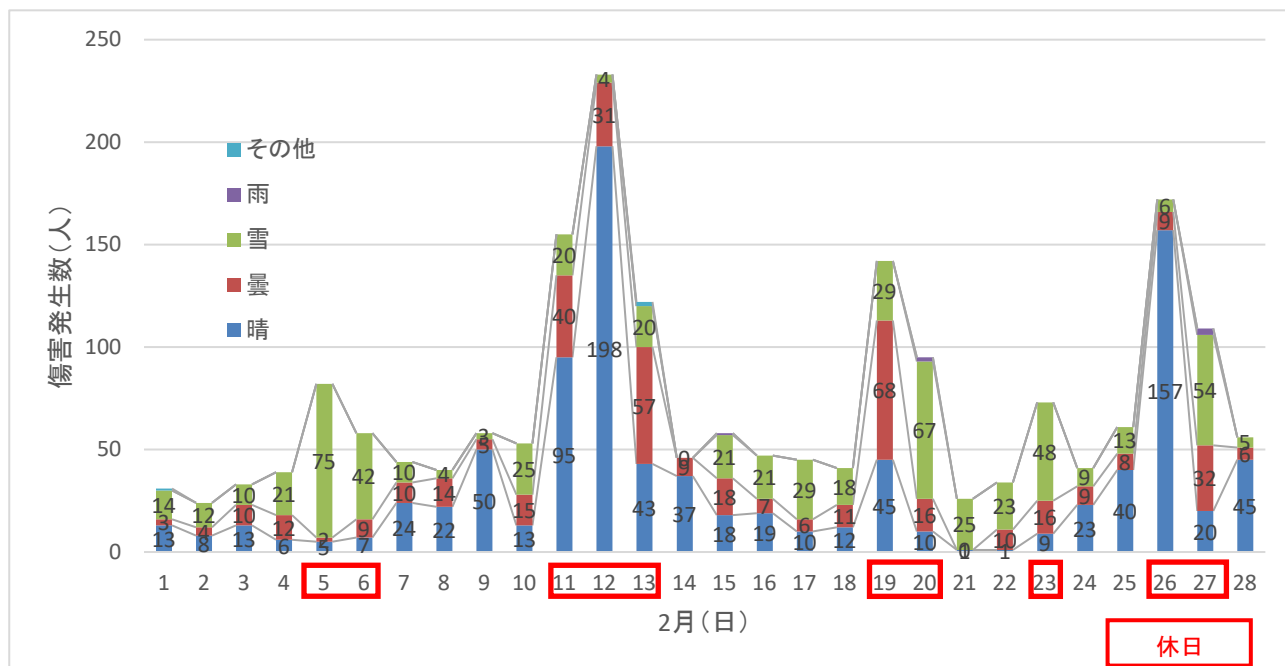


図7-2. 2月の傷害発生数と天候内訳

11. 性別

図8は受傷者の性別割合を示したものです。「合計」とはスキー、スノーボード、ソリ・その他を合計したものです。

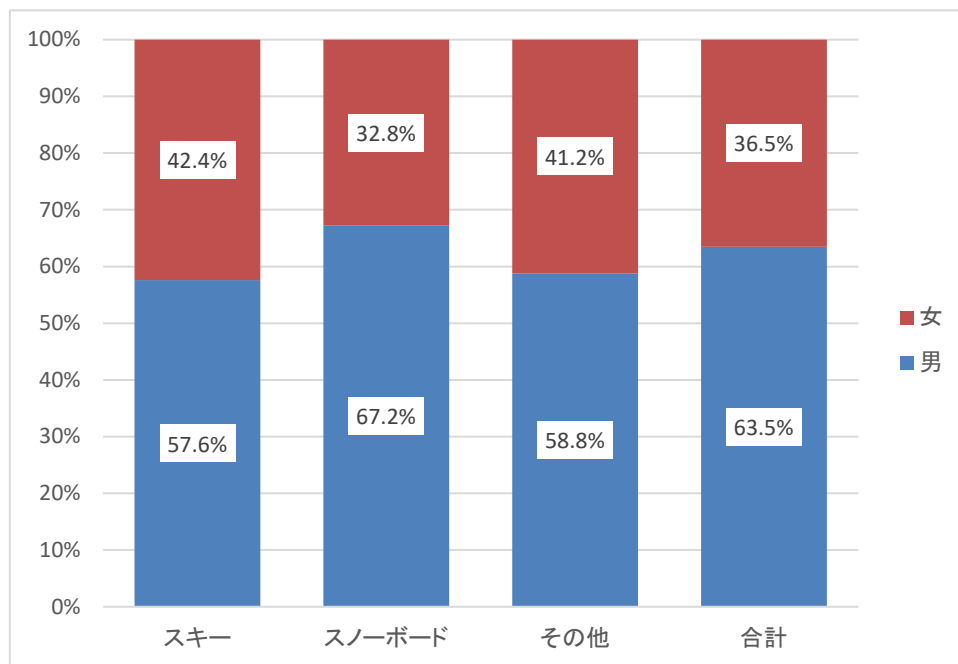


図8. 性別

12. 年齢

図9は受傷者の年代を示したものです。スキーの受傷者は、50歳代が20.8%と最も多く、20歳代(19.7%)、10歳代(13.9%)、40歳代(12.5%)、60歳代(11.7%)と続き、80歳以上で1.2%(40歳代以上合計52.8%)と、スノーボードに比べ年齢層が広く、高齢者の割合も多いことが分かります。スノーボードの受傷者は40歳未満が全体の87.3%を占め、スキーに比べて若年層が圧倒的に多いことがわかります。

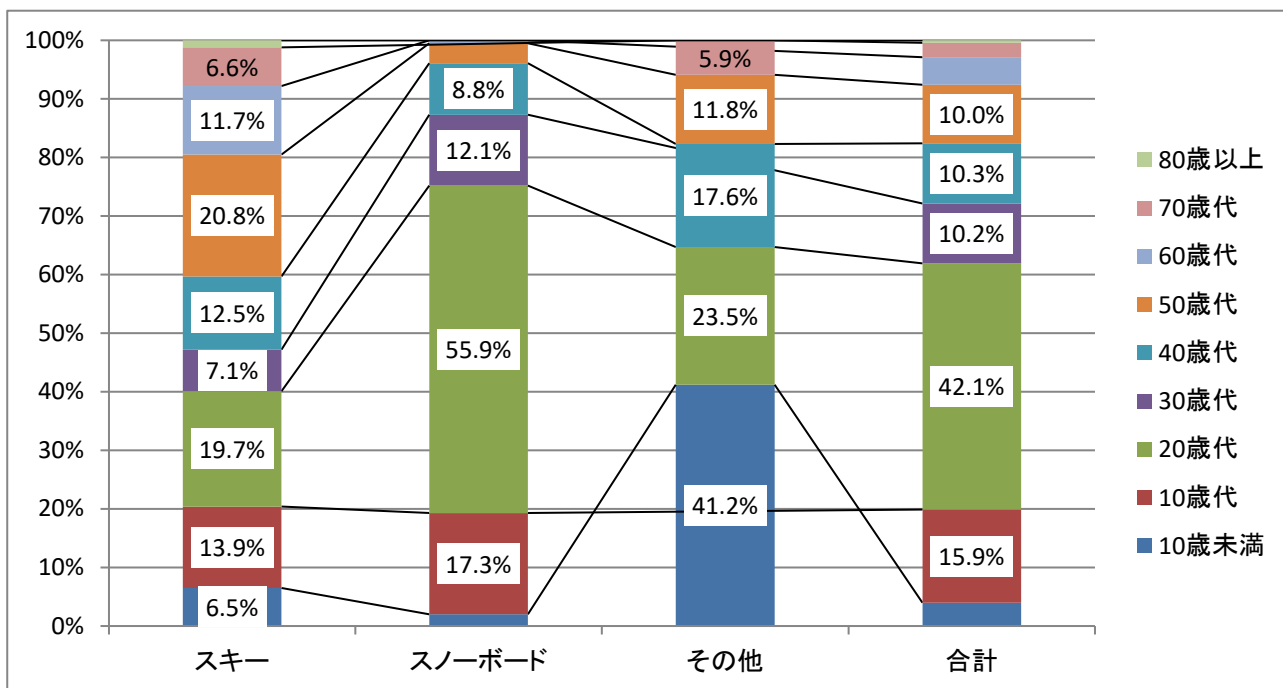


図9. 年齢

13. 技能

図10-1 は受傷者の技能を示したものです。スノーボードの受傷者は「中級」以下が91.3%を占めるのに対して、スキーは「中級」以上が63.81%を占めています。

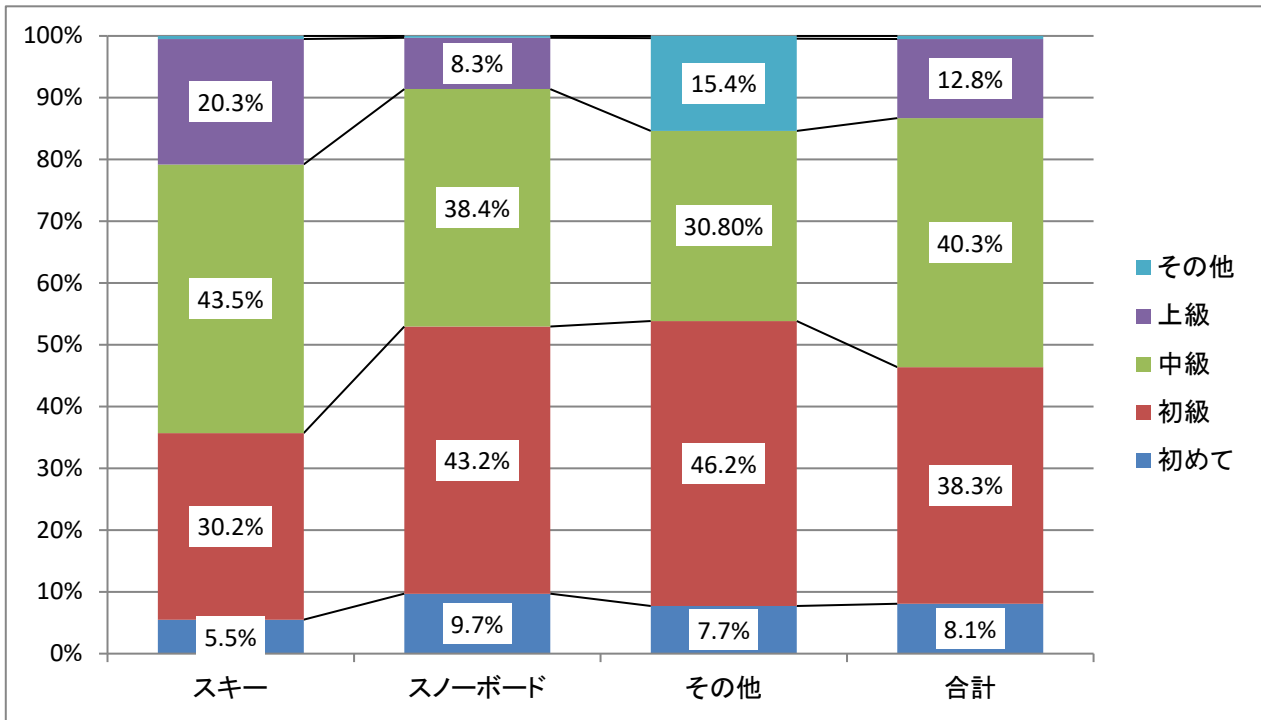


図10-1. 技能

図10-2 は受傷者の技能を性別に示したものです。スキー・スノーボードの受傷者とも技能レベルは男性が女性より高くなっています。これは、スキー、スノーボードの愛好者の人口そのものが、男性が女性より中・上級者の占める割合が高いことと関連があると思われます。

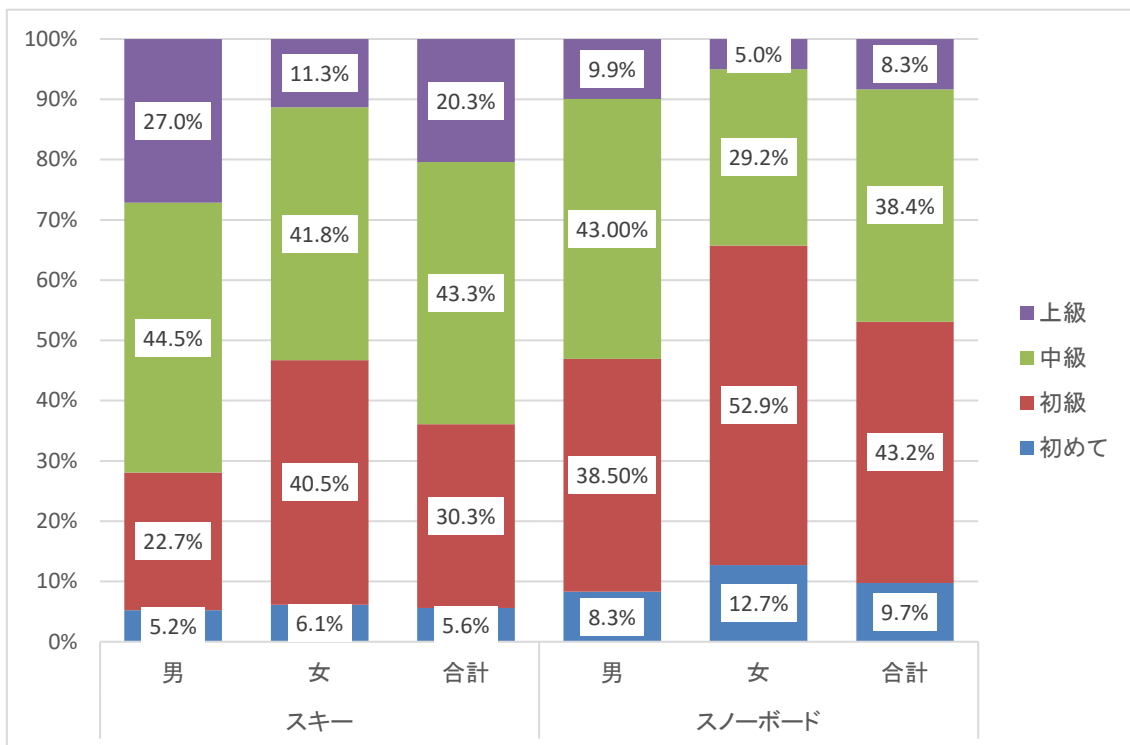


図10-2. 性別技能

14. 受傷場所

図 11-1 は受傷場所を斜面別に、図 11-2 はパークの種別を示したものです。スノーボードでは、「ワンメイク」での受傷の割合がスキーと比べて4.4ポイント高くなっています。スノーボードの「その他の場所」では、ボックス、キッカー、FRP、レールが多く見られました。

図 11-3 は、リフト乗り場・乗車中・降り場での傷害数（人）を示し、乗り場より降り場でのケガが多く、スキーで約2倍、スノーボーダーでは、約3倍多いことがわかります。

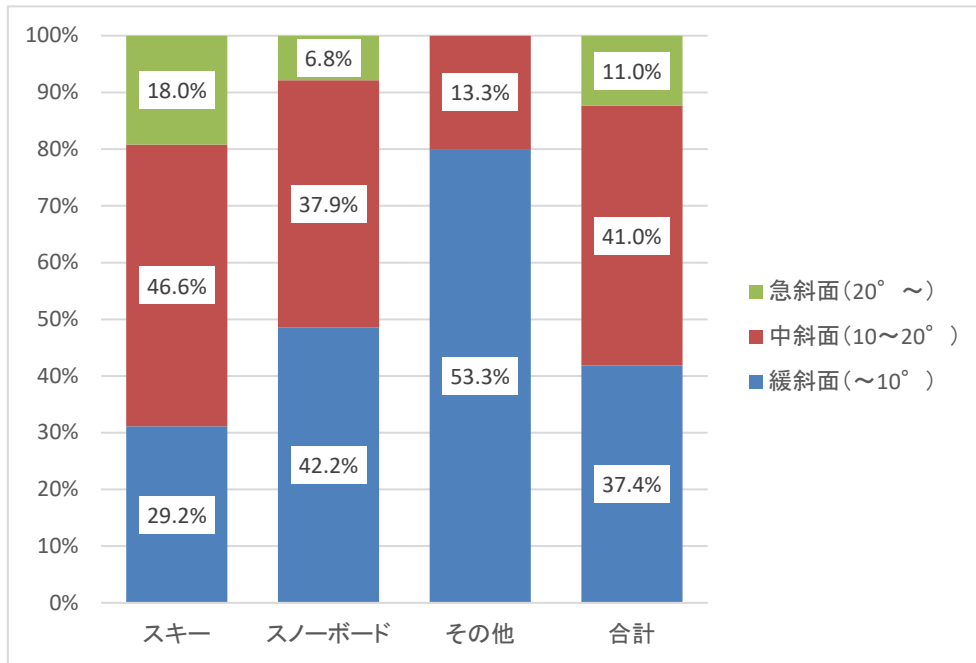


図 11-1. 受傷場所（斜面）

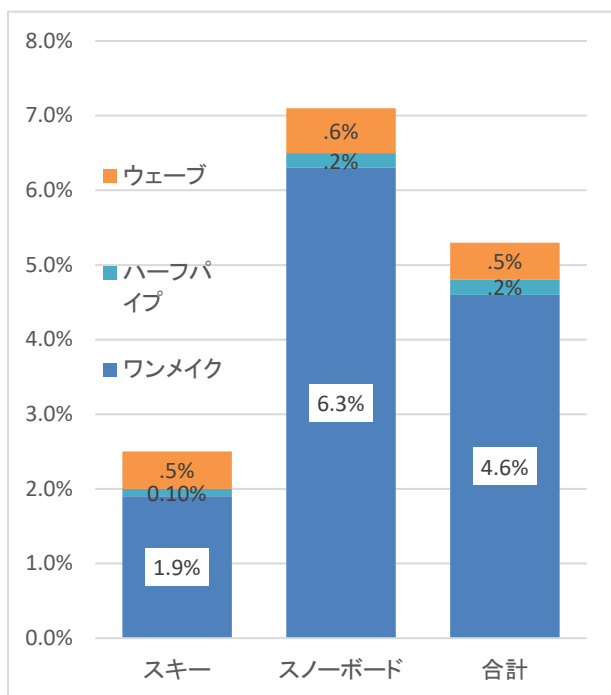


図 11-2. 受傷場所（パーク）

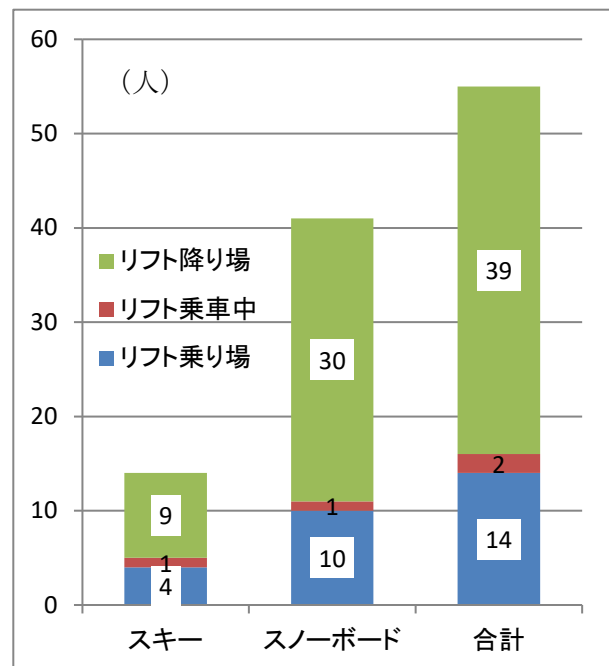


図 11-3. リフト乗り場・乗車中・降り場の傷害数

15. 受傷原因

図12-1 は受傷原因を示したものです。「自分で転倒」の割合が最も高く、スキーは73.8%、スノーボードは83.0%を占め、「人と衝突」の割合はスキーがスノーボードより9.3ポイント高率でした。

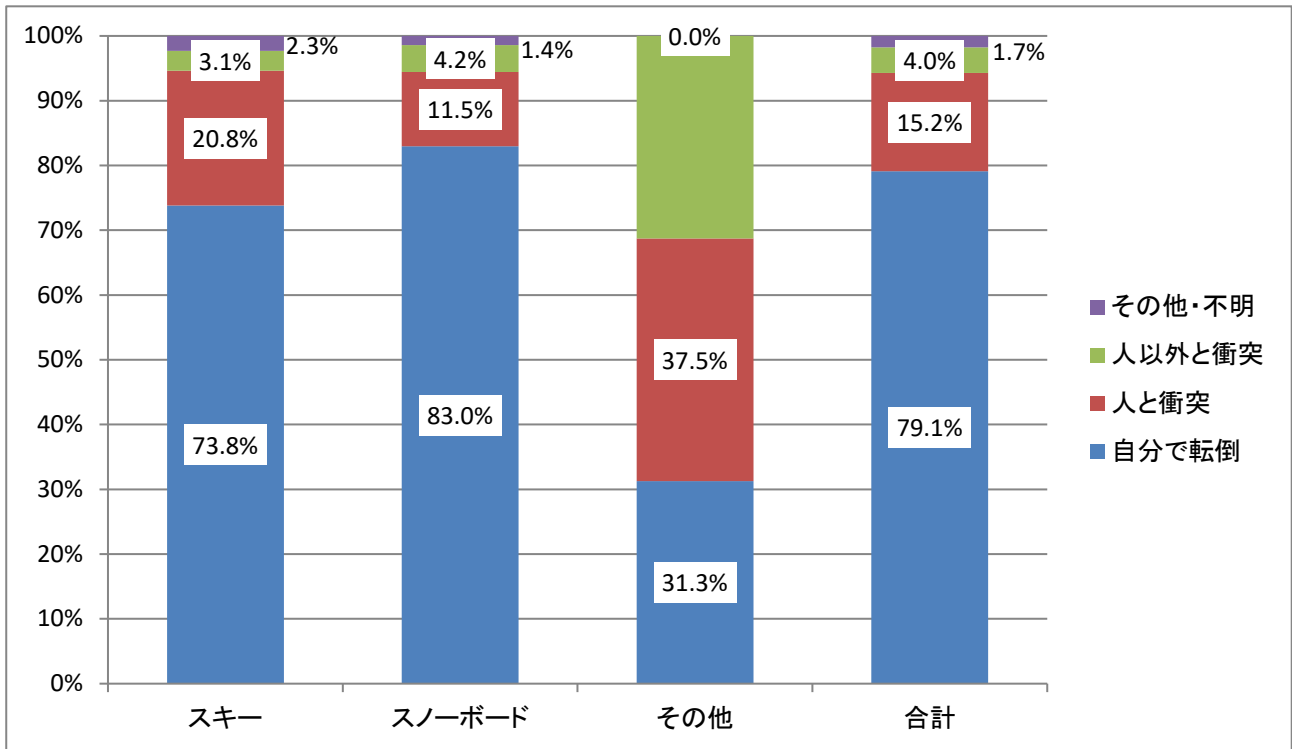


図 12-1. 受傷原因

図 12-2 は受傷原因のうち「自分で転倒」についての内訳です。スキー、スノーボードとも「バランスを崩して転倒」の割合が最も高く、スキーでは 81.9%、スノーボードでは 67.6%を占めました。スノーボードの「ジャンプ失敗」「トリック失敗」は合わせて 13.2%でした。

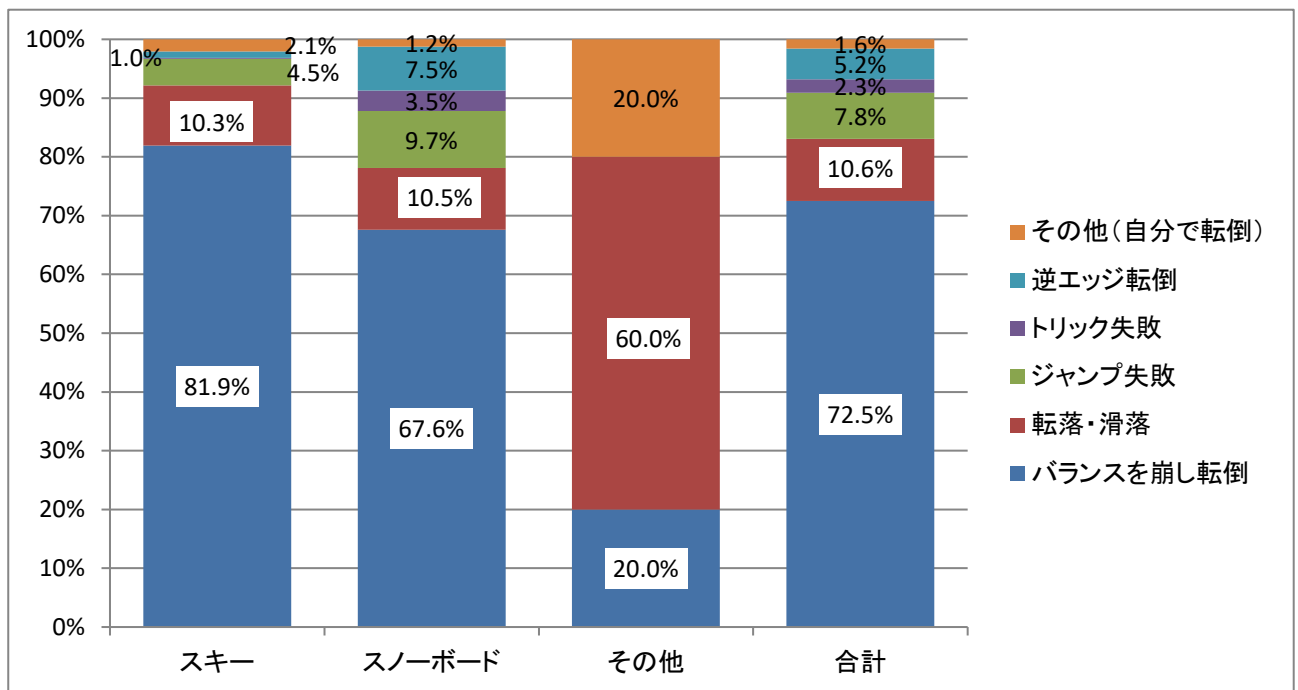


図 12-2. 受傷原因「自分で転倒」の内訳

図12.3 は受傷原因のうち「人と衝突」についての内訳です。スノーボーダーでは、スキーヤー：スノーボーダーとの衝突比が1：3だったのに対して、スキーヤーでは、1：1でした。この原因として、スノーボーダーは横乗りの影響で背中合わせの視界不良となる組み合わせが起こるため、スノーボーダー同士の衝突が多いと考えられます。

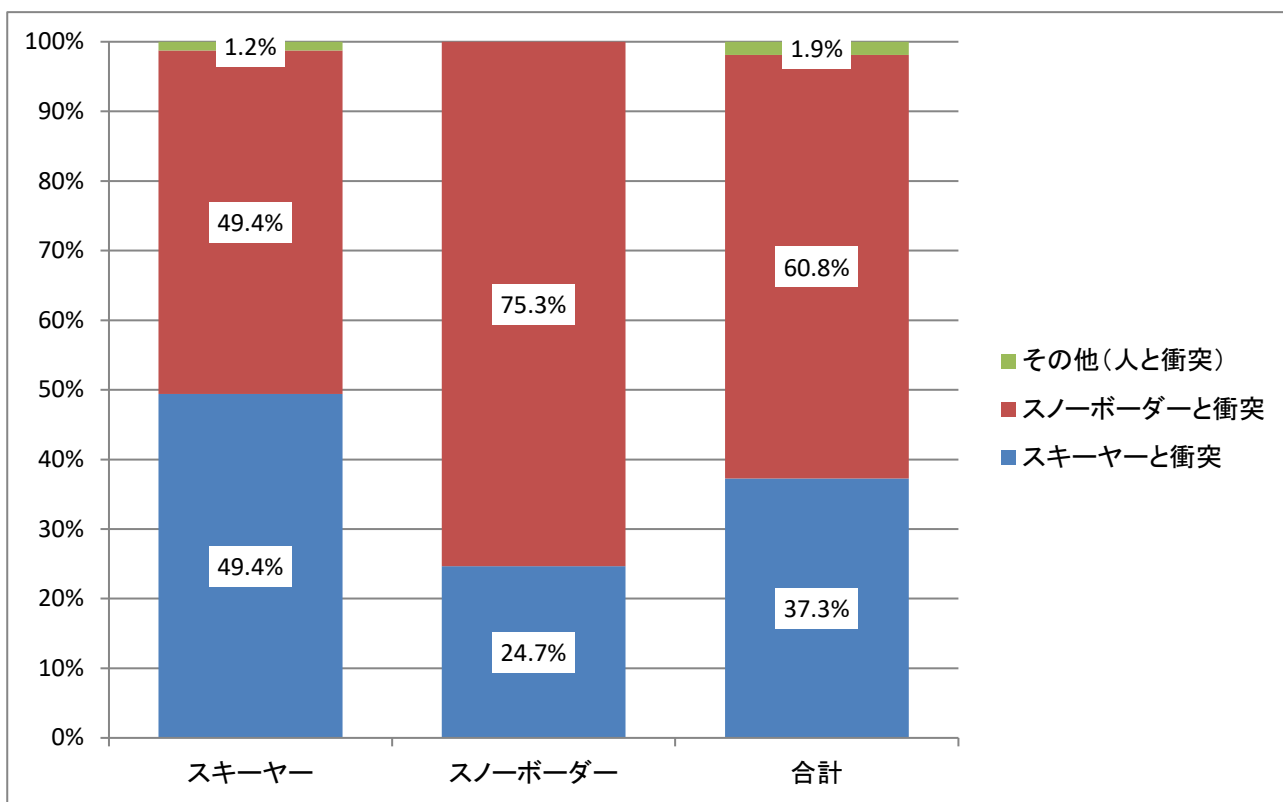


図 12-3. 受傷原因「人と衝突」の内訳

受傷原因のうち「人以外との衝突」で最も多かったのは「立ち木」で、スキーで6件、スノーボードで39件でした。次に「その他の物」との衝突も多く、スキー2件、スノーボードで16件でした。

※ 衝突相手の確認について

「人と衝突」したのは314件でした。このうち「相手の確認」の有無の欄に回答した104件中、90件(86.5%)が衝突の相手を「確認している」、14件(13.5%)が「不明」と回答していました。このことから「人と衝突」の7～8件に1件は衝突相手を確認できない「当て逃げ」が発生していたことが分かります。

※ 飲酒について

スキー、スノーボードで飲酒の有無欄に記載があったのは1,687件で、このうち「飲酒」とあったのは20件(1.2%)でした。

16. 傷害の部位と種類

傷害の部位と種類は、調査用紙に記入された1番から4番のすべてを合計した受傷数（応答数）です。すなわち、一人で複数箇所(最大4箇所まで)をけがした場合でもすべて集計してあります(重複回答)。図中のnは集計の対象とした受傷数（応答数）です。

1) スキーの傷害部位と種類

図13-1 はスキー（アルペンスキー、スキーボード、テレマークスキー、その他のスキー）を合計した傷害の部位です。膝が最も多く（42.2%），下腿（12.2%），肩（11.4%），足首（9.7%），頭部（7.8%），の順に多く受傷していました。この上位5部位で全傷害の83.3%を占めました。

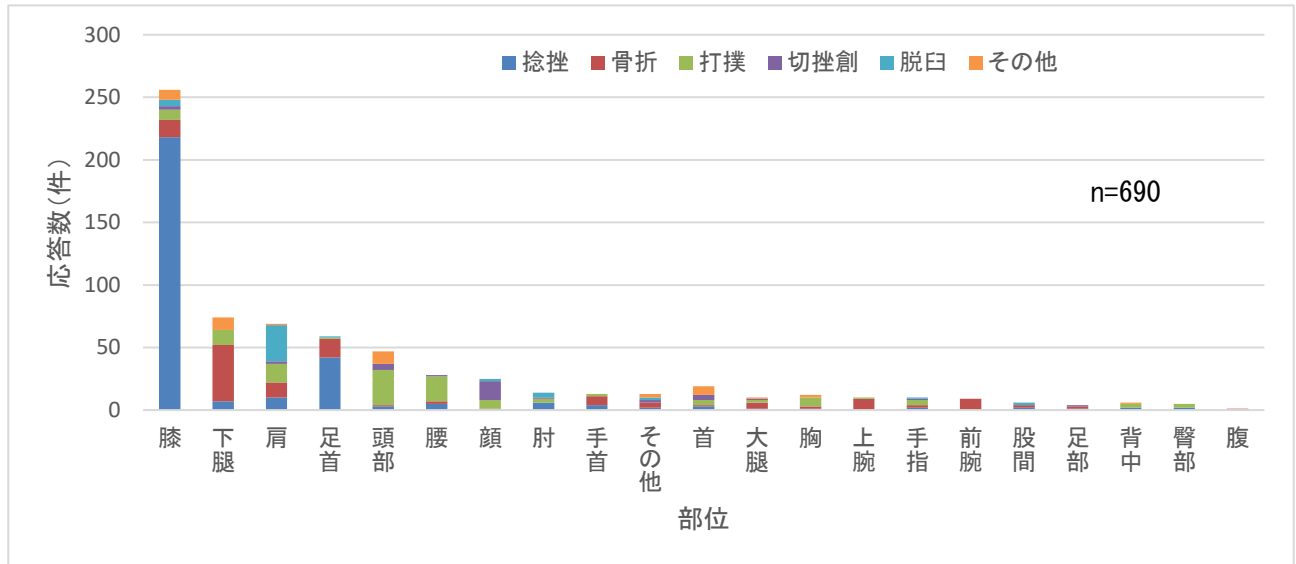


図 13-1. スキーの傷害部位と種類(重複回答)

図13-2 はスキーにおける「自分で転倒」の場合の傷害部位と種類について、上位5部位を示しています。膝が最も多く、膝の85.2%が捻挫，下腿の60.8%が骨折，肩の42.0%が脱臼，足首の71.2%が捻挫，頭部の59.6%が打撲でした。

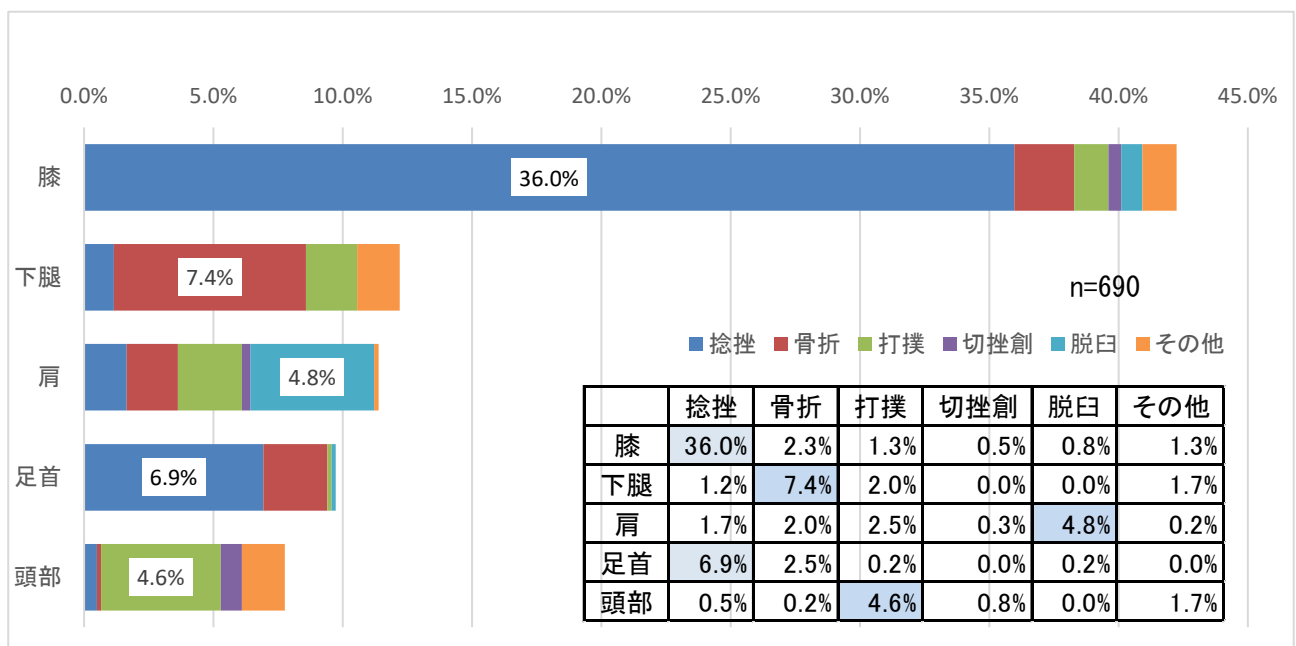


図13-2. スキーにおける「自己転倒」時の傷害部位と種類(重複回答)

2) スノーボードの傷害部位と種類

図 13-3 はスノーボード（フリースタイルスノーボード，アルペンスノーボード，その他のスノーボード）を合計した傷害部位と種類です。肩(22.9%)，手首(16.6%)，肘(8.4%)，頭部(8.0%)，膝(7.4%)の順に多く受傷しています。この上位5部位で全傷害の63.3%を占めました。肩と上肢の合計は57.0%に達し，スキーの下肢の合計(66.5%)と比べて対照的で，スノーボードでは肩を含めた上肢のケガが多いことがわかります。

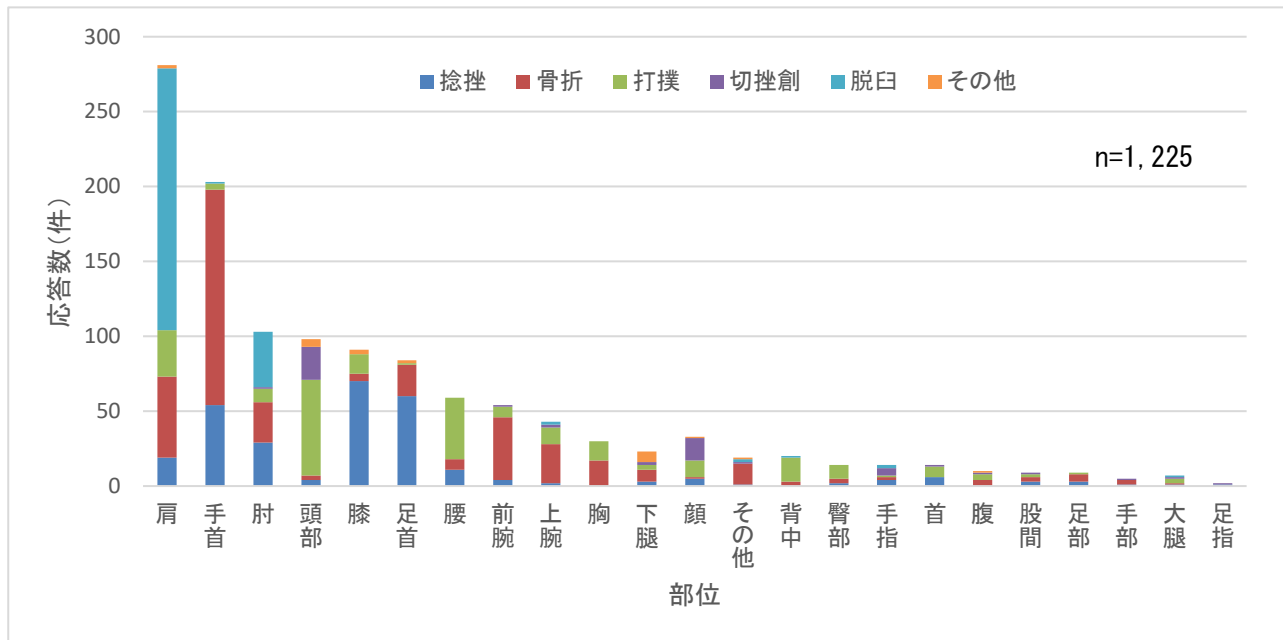


図 13-3. スノーボードの傷害部位と種類(重複回答)

図13-4 はスノーボードにおける「自分で転倒」の場合の傷害部位と種類について，上位5部位を示しました。肩と手首の割合が多く，肩の62.3%が脱臼，手首の70.9%が骨折でした。手首と前腕を合わせると全傷害の21.0%，さらに肘を含めると29.4%を占めました。頭部のケガの90.8%が骨折・打撲・切挫創であることから，ヘルメット着用の重要性を示しています。

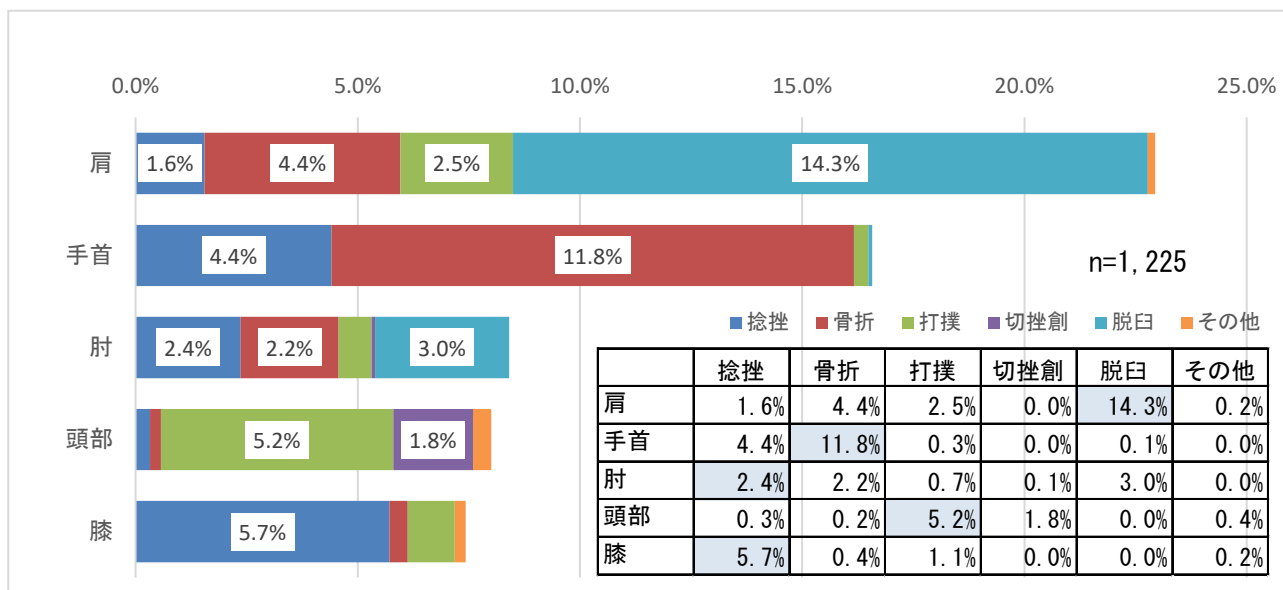


図13-4. スノーボードにおける「自己転倒」の傷害部位と種類(重複回答)

3) ソリの傷害

ソリの受傷は17件で、傷害の程度は9件が中等傷、10件が軽傷でした。表8にその受傷概況を示しました。

表 8. ソリの傷害の概況

	性別	年齢	用具	受傷場所	受傷原因	部位1	部位1_種類	傷害程度
1	男	44	立ち乗りソリ	緩斜面(～10°)	スノーボーダーと衝突	胸	打撲	中等傷(必要あり)
2	女	49	子ども用ソリ	その他	その他(自分で転倒)	足指	骨折	中等傷(必要あり)
3	男	9	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	.	手首	捻挫	.
4	男	51	立ち乗りソリ	中斜面(10～20°)	バランスを崩し転倒	膝	捻挫	軽傷(さほど必要なし)
5	男	27	立ち乗りソリ	緩斜面(～10°)	転落・滑落	肩	骨折	中等傷(必要あり)
6	女	71	子ども用ソリ	.	その他(人と衝突)	腰	打撲	軽傷(さほど必要なし)
7	男	27	立ち乗りソリ	緩斜面(～10°)	スキーヤーと衝突	顔	打撲	軽傷(さほど必要なし)
8	男	7	その他のソリ	その他	その他(人以外と衝突)	頭部	打撲	軽傷(さほど必要なし)
9	女	52	立ち乗りソリ	スキー場エリア外	立木	顔	打撲	軽傷(さほど必要なし)
10	男	8	子ども用ソリ	その他	その他(人と衝突)	下腿	打撲	中等傷(必要あり)
11	女	9	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	立木	肩	打撲	軽傷(さほど必要なし)
12	男	3	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	立木	頭部	打撲	中等傷(必要あり)
13	女	43	子ども用ソリ	.	その他(人と衝突)	顔	打撲	軽傷(さほど必要なし)
14	女	4	子ども用ソリ	その他	転落・滑落	下腿	打撲	軽傷(さほど必要なし)
15	男	24	立ち乗りソリ	緩斜面(～10°)	転落・滑落	肩	骨折	中等傷(必要あり)
16	男	25	子ども用ソリ	緩斜面(～10°)	ネット	下腿	切挫創	軽傷(さほど必要なし)
17	女	7	子ども用ソリ	中斜面(10～20°)	その他(人と衝突)	顔	打撲	軽傷(さほど必要なし)

17. 傷害程度

図14 は傷害の程度を示したものです。重傷の割合はスキーで13.7%，スノーボードで10.2%，中等傷ではスノーボードがスキーに比べては7.6ポイント大きかった。合計で、中～重傷を合わせると7割強を占め、スノースポーツにおける傷害の程度が決して軽くないことがわかります。シーズン中の死亡事故については、資料1～3 をご覧ください。

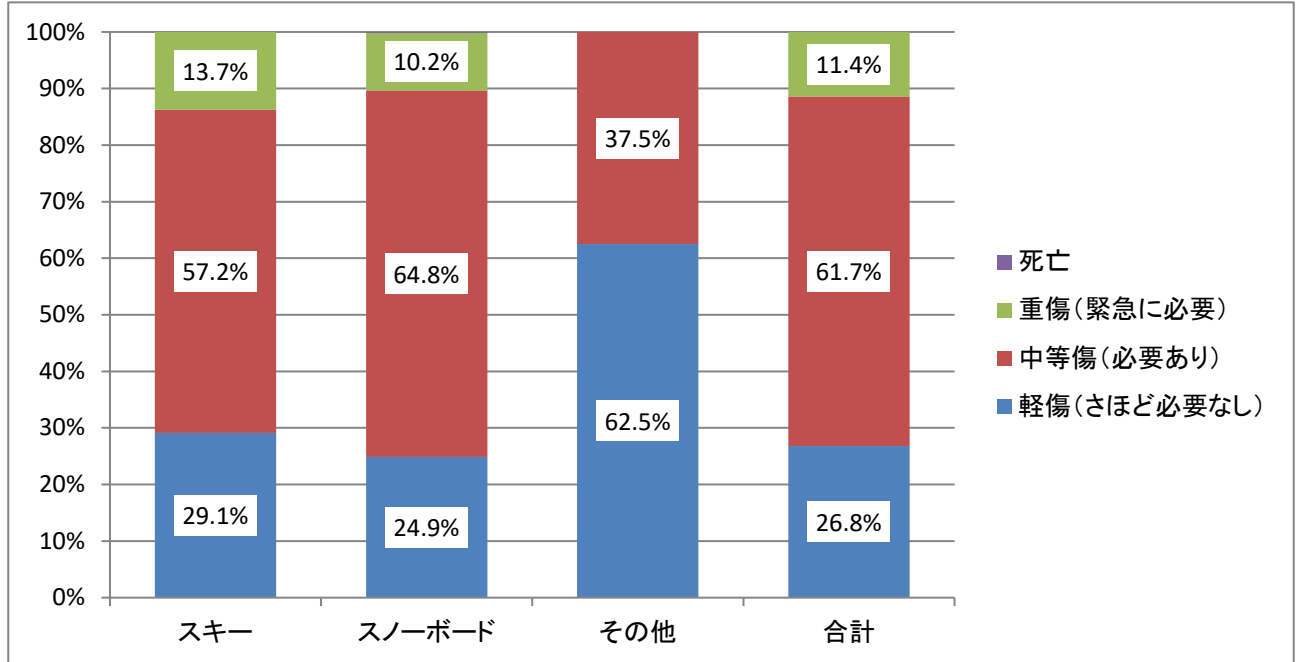


図 14. 傷害程度

18. 頭を強く打った疑い

図15 は「頭を強く打った疑い」の割合です。スキーもスノーボードも13～15%台の高率で頭部を強打していることから、ヘルメットの着用が強く勧められます。また、頭部強打の際に頸椎損傷も同時に起こる可能性が高いので受傷後注意が必要です。

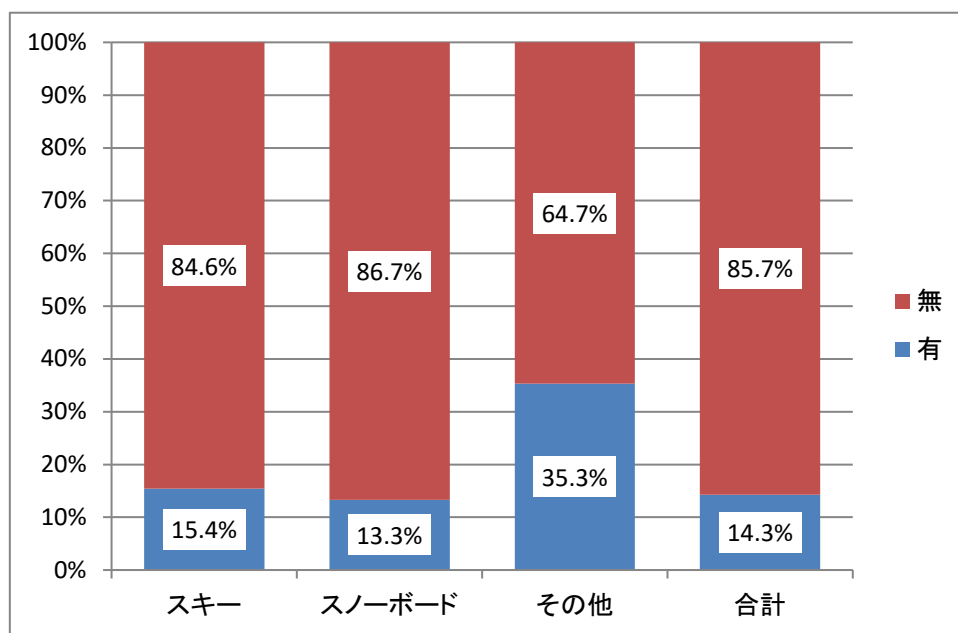


図 15. 頭を強く打った疑い

19. ヘルメットの着用状況

図16-1 は受傷時のヘルメット着用有無の割合を示したものです。スキーでは45.1%と昨シーズンより2.8ポイント増えたものの、19/20シーズンより3.1ポイント減少しました。スノーボードでは19.1%で昨シーズンより3.1ポイント増加したものの、19/20シーズンより5.3ポイント減少しました。

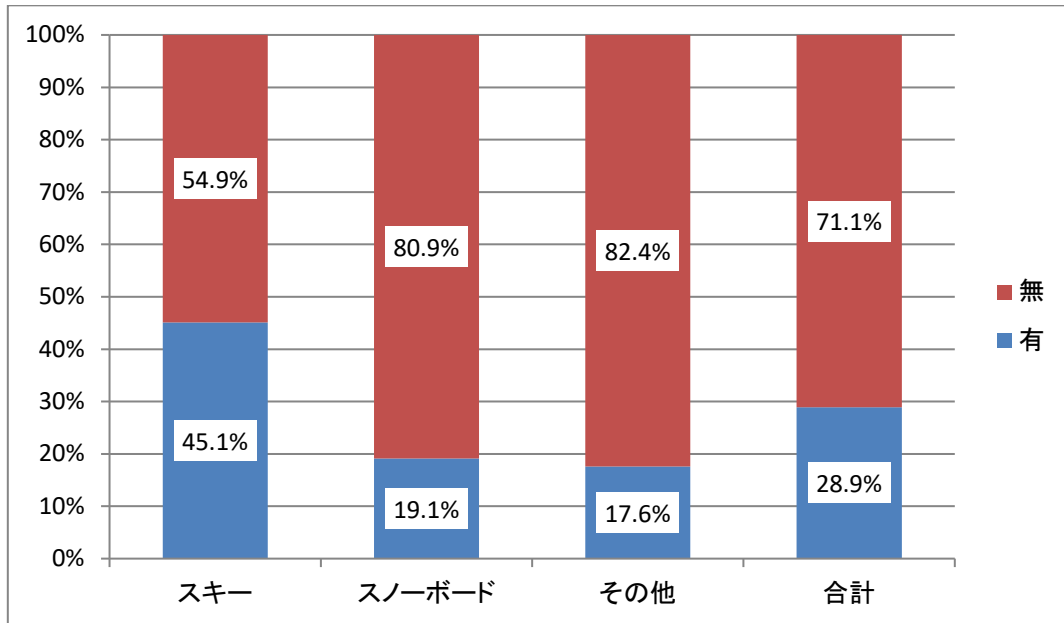


図 16-1. ヘルメット着用の有無

図 16-2 に、過去 10 年間のヘルメット着用率の推移について、スキーとスノーボード別に示しました。19/20 シーズンまでヘルメット着用率が増加していましたが、20/21 シーズンに一気に減少し、今シーズンは若干持ち直したものの 19/20 シーズンのレベルまで回復していません。欧米のヘルメット着用率の約 8 割には到底及ばず、さらなる啓蒙活動が望まれます。

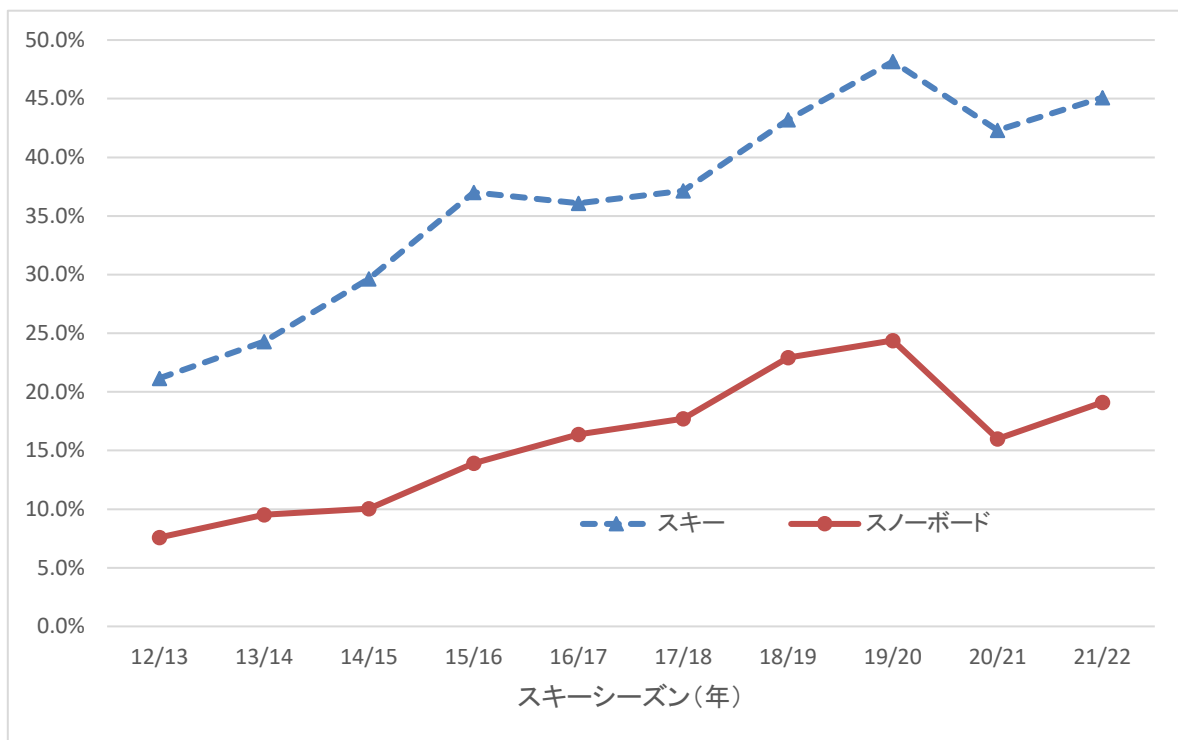


図 16-2. ヘルメット着用率の推移

20. 保険の加入状況

1) 傷害保険の加入状況

図17-1 は受傷者の傷害保険の加入状況を示し、スキーマの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも14.1ポイント加入率が高率でした。加入しているかどうか分からない受傷者が、スキーやスノーボードで4割弱も存在することは驚きです。さらなる保険加入への啓蒙活動が必要です。

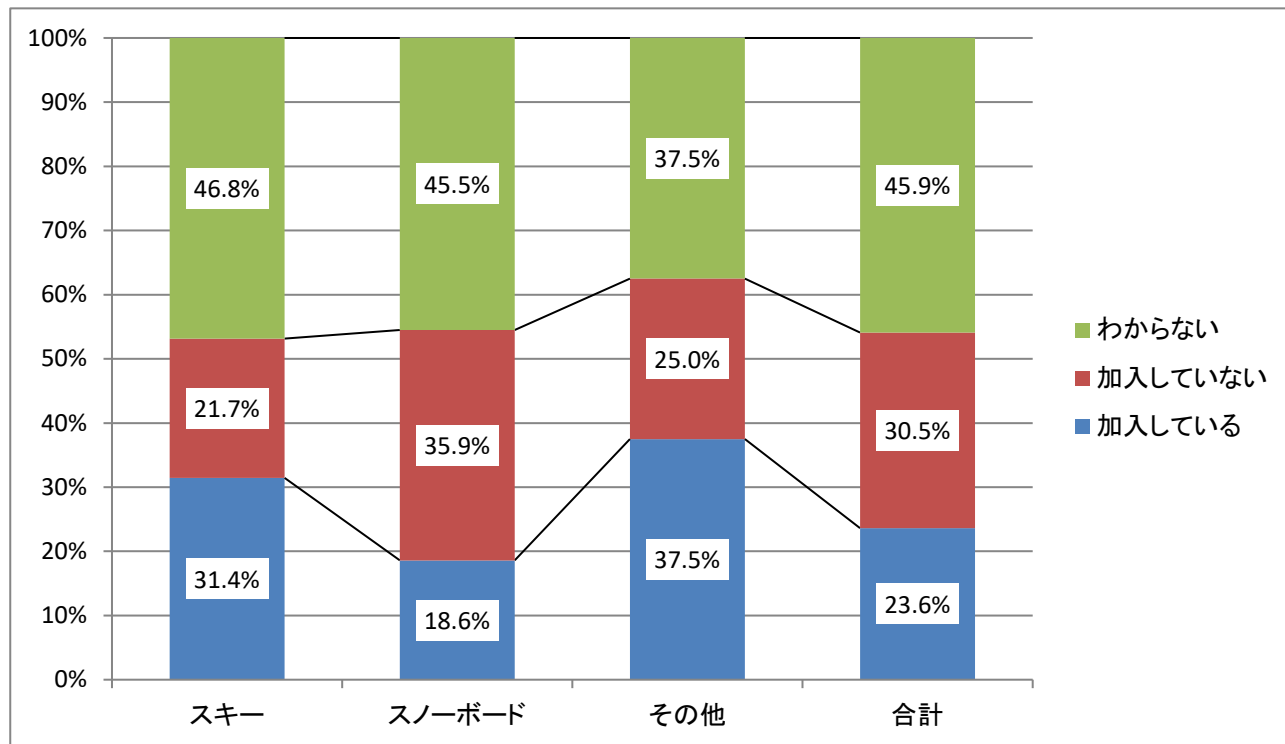


図17-1. 傷害保険の加入状況

2) 賠償責任保険の加入状況

図17-2 は受傷者の賠償責任保険の加入状況です。傷害保険と同様にスキーマの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも12.9ポイント高率でした。加入しているかどうか分からない受傷者が、スキー・スノーボードも約5割弱もいました。

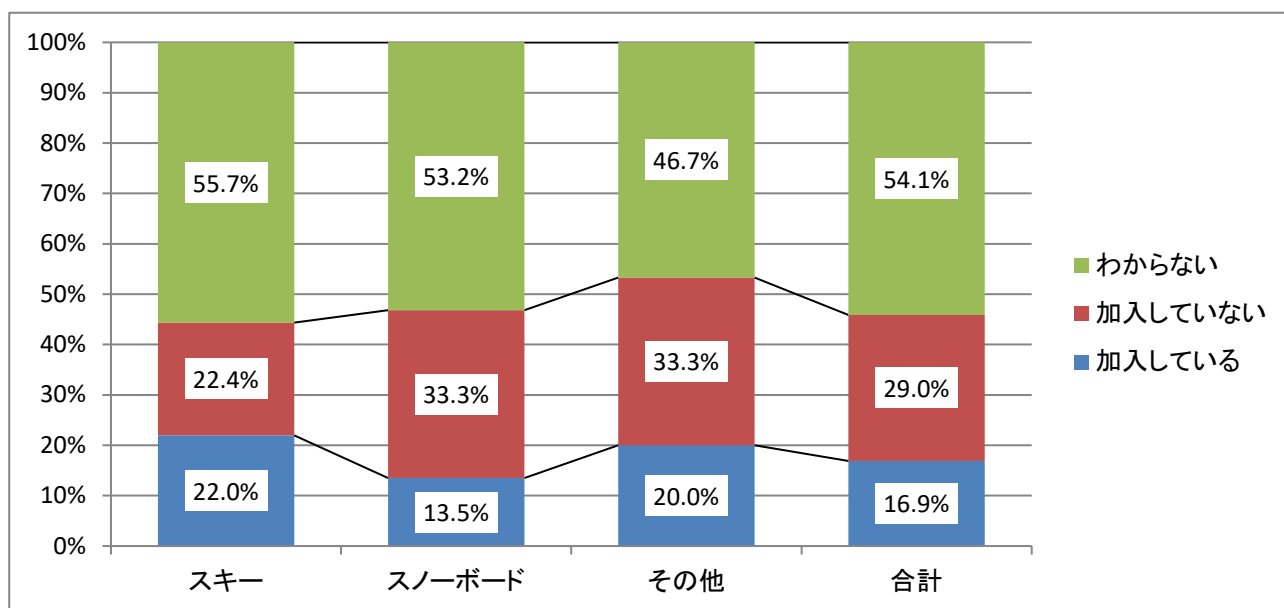


図 17-2. 賠償保険の加入状況

21. 受傷時の行動

図18-1 は受傷時の行動について示したものです。スキー、スノーボードとも「プライベート」での受傷が最も多く、90.0～100.0%を占めました。スキーにおいて「講習中」の受傷の割合が比較的高いのは、スノーボードよりスキースクール等での講習を受講する機会が多いことと関連があると思われます。

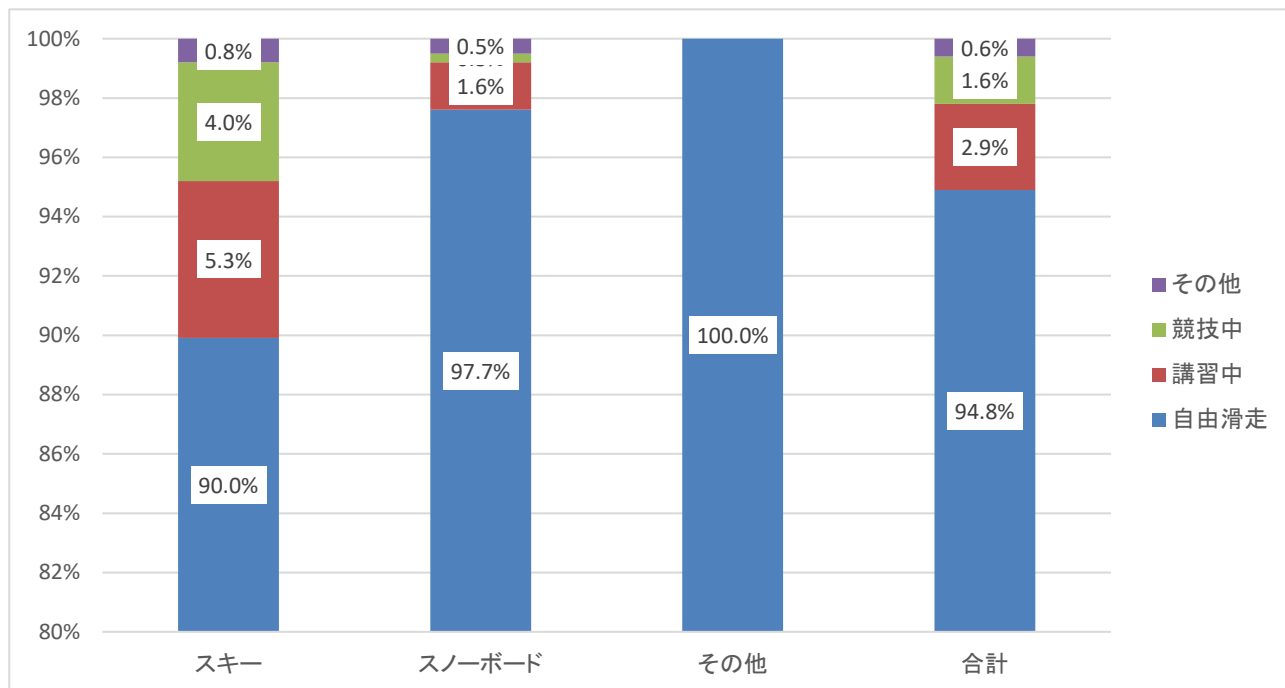


図 18-1. 受傷時の行動

図18-2 は受傷時の行動のうち「講習中」の内訳です。スキーヤー41人、スノーボーダー20人が受傷していました。「授業・講習中」に「生徒」が受傷したと回答があったのはスキー11人、スノーボードが5人でした。「授業・講習中」に「指導者」が受傷したと回答があったのは、スキー1人、スノーボードが1人でした。

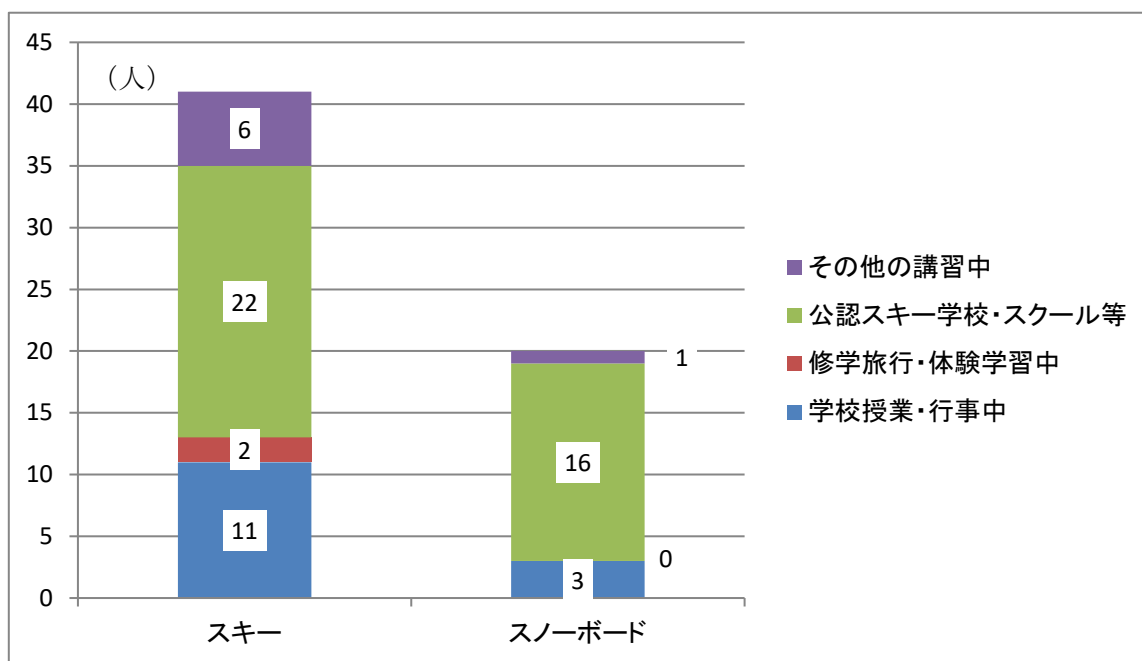


図 18-2. 受傷時の行動「講習中」の内訳

22. 受傷時のスピード

図19 は受傷時の「自覚的」スピードを示したものです。スキー、スノーボードともに約75～77%が「ふつう」以下のスピードで受傷しています。「自己転倒」による受傷はスキーで75.6%，スノーボードで77.3%に達することから、「ふつう」のスピードと感じていても自分で制御できないほどのスピードが出ていることがわかります。「速度」を自覚し少しでも不安を感じたら「速度」を抑えることが傷害予防の重要なカギとなります。

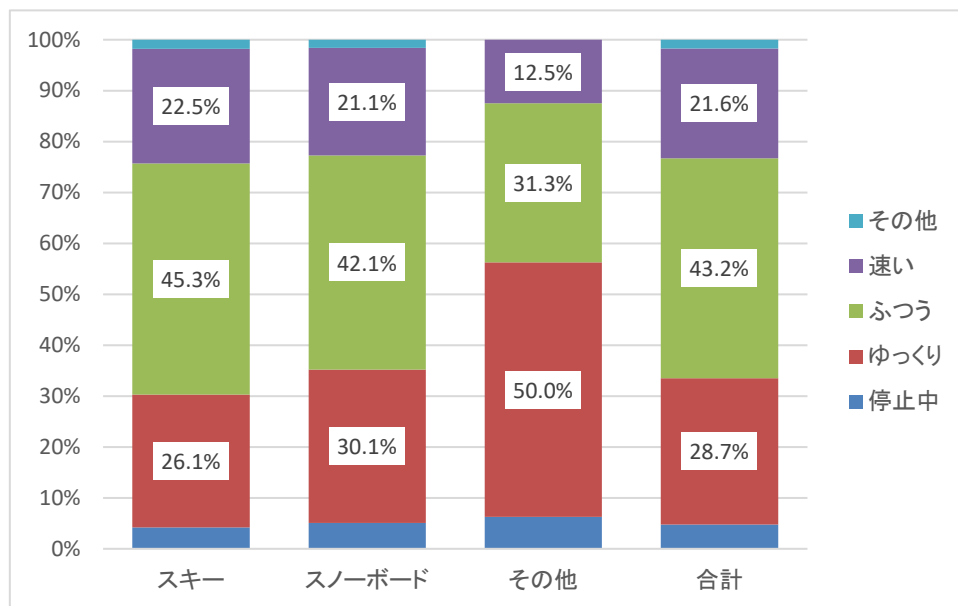


図 19. 受傷時のスピード

23. 雪面状況

図20 は受傷時の雪面状況です。スキー、スノーボードともに受傷時の雪面は「スムーズ」の割合が最も高く、約79～85%を占めていました。

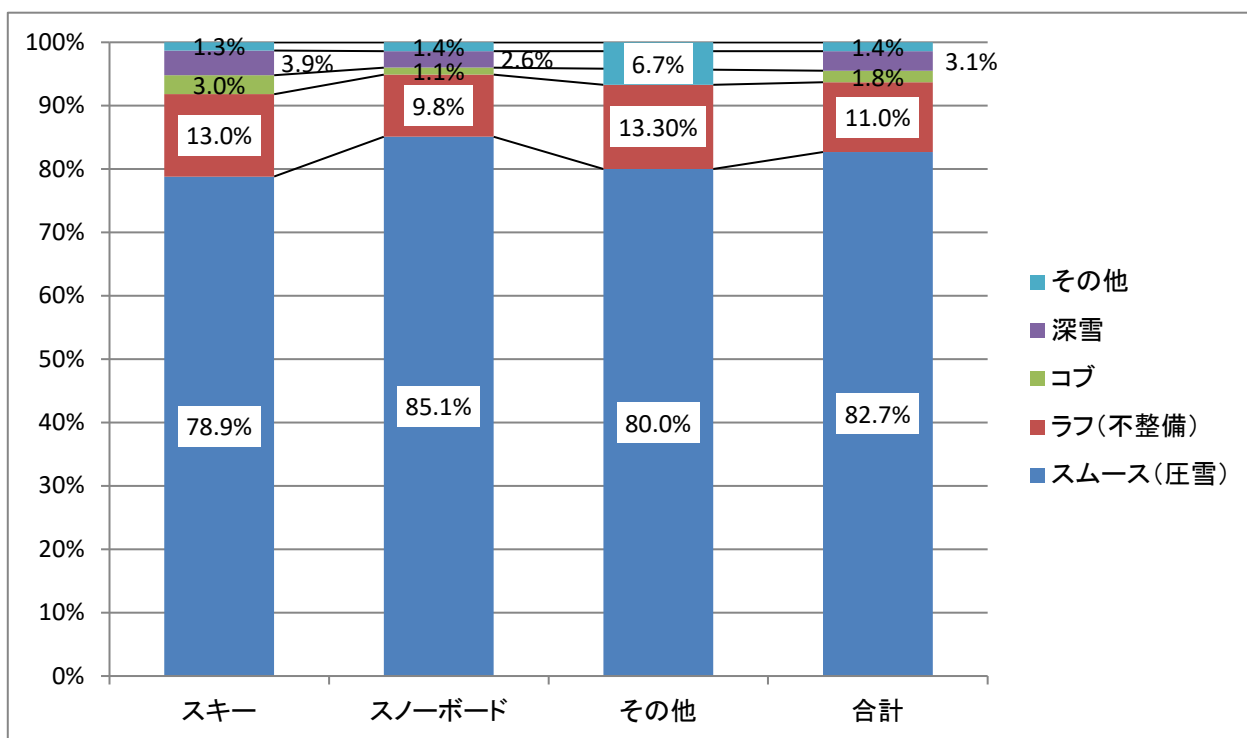


図 20. 雪面状況

24. 雪質

図21 は受傷時の雪質です。スキー、スノーボード、その他の合計で67.1%が乾雪でした。

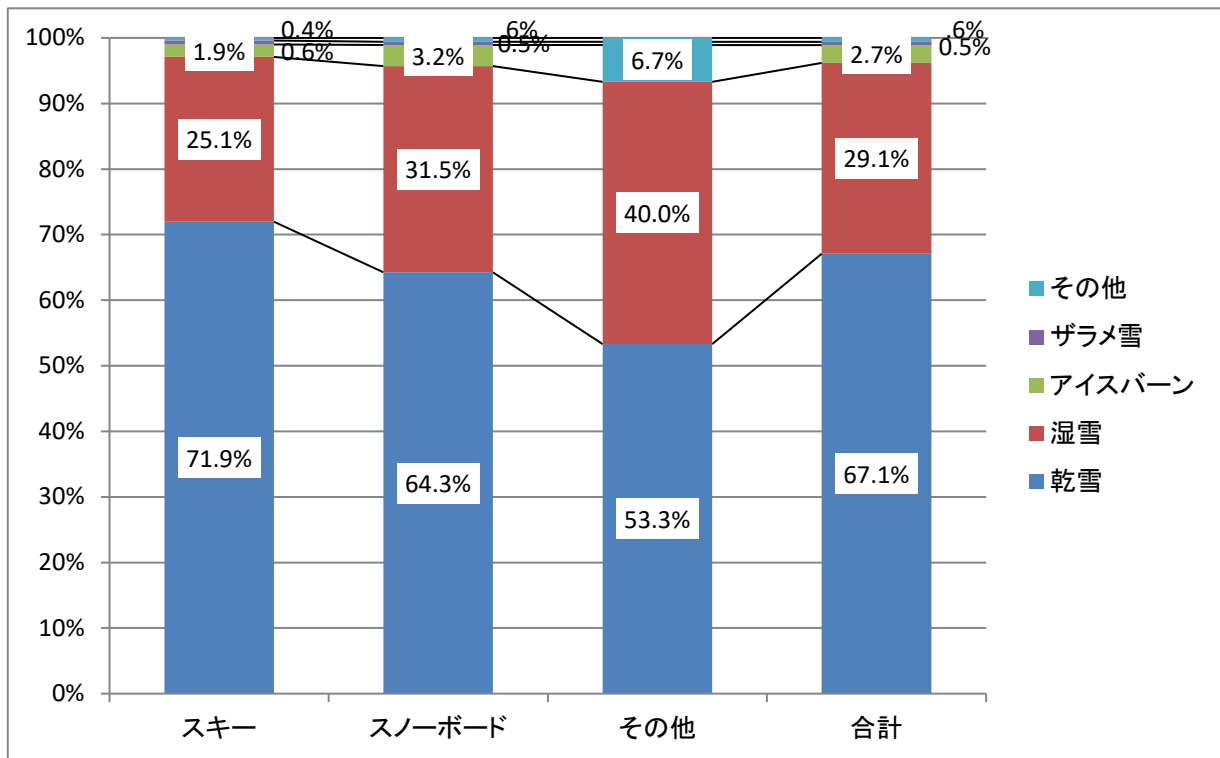


図 21. 雪質

資料1 2021/2022 シーズン スキー場内および管理区域外での死亡事故一覧表（2022年3月31日現在）

2021-2022シーズンのスキー場での死亡事故一覧表（スキー場内）

《スキーヤー》

No.	日付	発生場所	性別	年齢	事故状況	備考
1	2022.02.25 (金) 11:50頃 晴	長野県長野市 戸隠スキー場	男	69	スキーヤーA（69才、男性）がコース上をターンしながら滑走していたところ、スキーヤーB（66才、男性）が直滑降で滑走してスキーヤーAの胸部に頭から衝突した。衝突後スキーヤーBは意識が朦朧とした状態で鼻血を出していた。通報を受けスキー場パトロールが到着した時は呼びかけに応答があったが、パトロール室に運び救急車の到着を待っている間に呼吸停止したため、心肺蘇生を開始。その後ドクターヘリで病院へ搬送されたが死亡が確認された。スキーヤーAは肋骨骨折、右足打撲、右肩挫傷を負った。 事故当時は晴れており、平日でコースも荒れていない状況だった。事故現場の先は他コースとの合流箇所だが、スロウダウンのバナーを常設して注意喚起している。両名ともヘルメットを着用していた。	①事業者からの報告 ②2/25長野放送web 2/26信濃毎日新聞 対策 従来から設置しているバナーでの告知を徹底、場内放送での注意喚起、パトロールを強化する。
2	2022.03.07 (月) 13:45頃 晴	長野県川上村 シャトレゼリ조트 ハケ岳	男	68	スキーヤー（68才、男性）が、グレンデ滑走中前方のボーダーを避けようとしてバランスを崩し、コース外の立木に衝突した。当該スキーヤーが避けようとしたボーダーがパトロールに通報し、リフト搭乗中に事故を目撃した客（消防士）が駆けつけ、救命活動を行った。 スキーヤーは救急搬送されたが、頸椎損傷及び大動脈損傷により死亡した。ヘルメットは着用していた。	①事業者からの報告 ③3/8信濃毎日新聞外 対策 パトロールによるマナー違反者の巡回指導の強化と、館内ポップによる注意喚起。
3						

《スノーボーダー》

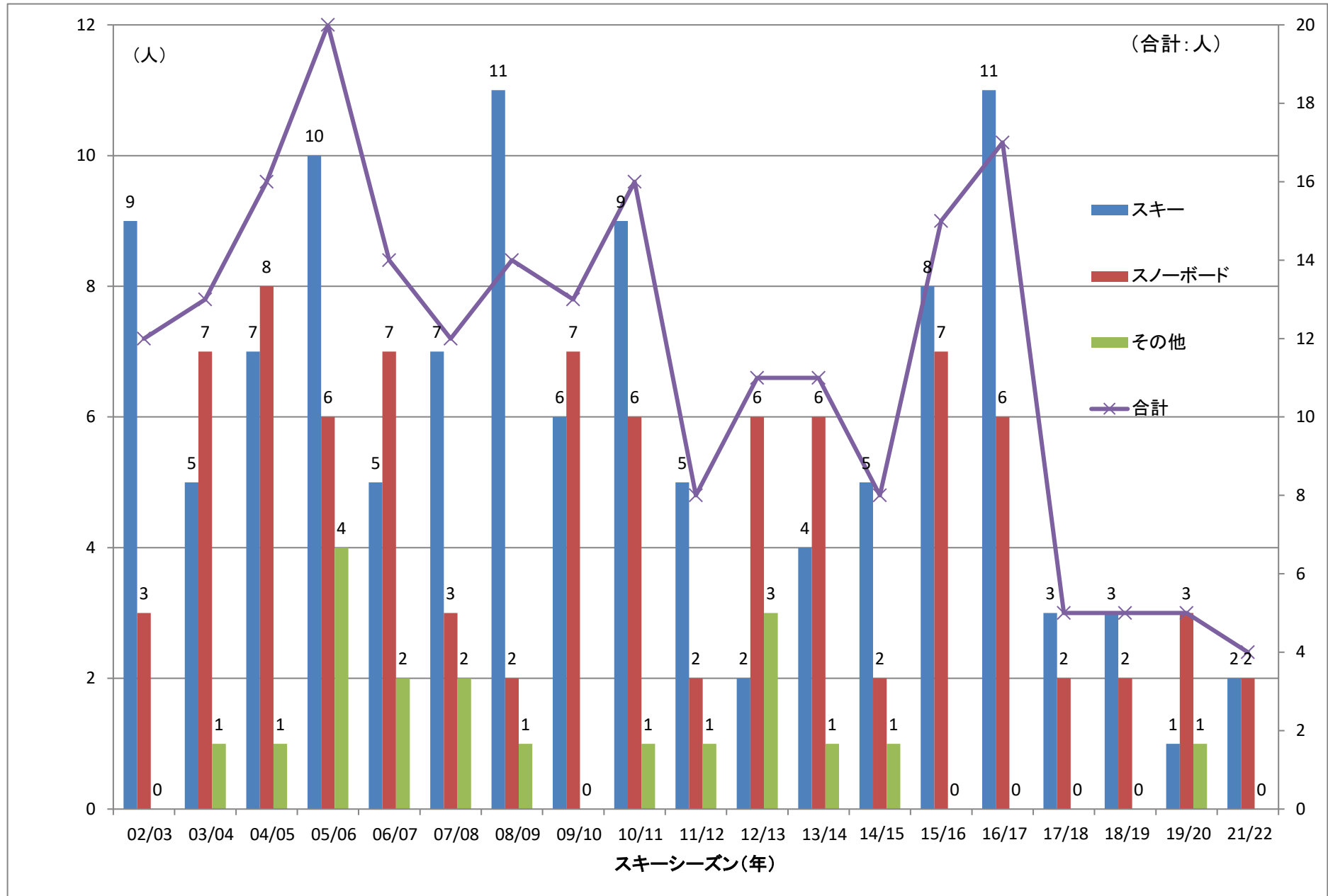
No.	日付	発生場所	性別	年齢	事故状況	備考
1	2022.01.30 (日)	新潟県妙高市 ロッテアライリゾート FreeRidingZone マムシコース	男	58	友人ら3人で当該コースを滑走中に、当該ボーダー（32才、男性）が注意喚起の竹ポールの間を抜け、その先にある落差2mの崖から頭を先にする形で雪面に突っ込んだ。同行者が119番通報し、消防から連絡を受けたスキー場パトロール隊員が現場へ到着した時には意識が無く、搬送先の病院で死亡が確認された。	①事業者からの報告 ②1/31新潟日報外 対策 規制の竹ポールの手前に迂回を促す矢印のバナーを設置。 来場者に掲示物の趣旨を啓蒙する。
2	2022.02.21 (月) 14:00頃 雪	長野県飯山市 斑尾高原スキー場	女	38	夫と二人で来場していたボーダー（38才、女性）が、非圧雪の上級者コースを滑走中に前のめりに転倒し、頭から雪に埋まった。夫が先行して滑走しており転倒、妻が5m程後方を滑走して転倒した。夫からの通報でパトロール隊が約10分後に到着したが、救出時点で意識は無く無呼吸の状態。病院へ搬送されたが17時30分頃死亡が確認された。死因は窒息。 夫への聞き取りで、現場は急斜面で直ぐに助けに行く事が出来ず、妻は手をバタつかせており、最初はふざけていると思ったとのこと。また、妻は何度もこのコースを滑走した経験があり、ヘルメットは未装着だった。 当時は吹雪いてはいないが降雪があり、積雪は380cm、昨晚からの降雪で新雪50cm程度だった。	①事業者からの報告 ②2/21信越放送Web 2/22長野朝日放送 Web、信濃毎日新聞 対策 スキー場の注意事項を入り口やHPで告知しているが、今後は非圧雪コースに限らず、安全な滑走を呼び掛ける場内放送を増やす。
3						

参 考

《バックカントリー・山スキー》

No.	日付	発生場所	性別	年齢	事故状況	備考
1	2022.01.29 (土)15:00頃	新潟県南魚沼市 阿寺山4合目付近	男	30	1月29日15時頃南魚沼市の阿寺山で、神奈川県からバックカントリースノーボードに来ていた男性(30才)が雪崩に巻き込まれた。警察によると当該ボーダーは知人2人とバックカントリースノーボードをしており、下山途中の4合目付近で雪崩に巻き込まれた。知人2人が雪に埋まった当該ボーダーを発見したが意識不明の状態。2人は消防に通報後自力で下山シケガ等はなかった。警察と消防が翌30日朝から救助に向かったが大雪のため現場にたどり着けず、2月1日15時30分頃、県警ヘリが当該ボーダーの遺体を収容した。	①1/30新潟総合テレビweb、新潟放送web、テレビ新潟web 2/2 新潟日報
2	2022.03.05 (土)17:00頃 晴	長野県野沢温泉村 野沢温泉スキー場 管理区域外	女	30	友人らボーダー4人が、規制ロープを潜り野沢温泉スキー場ゲレンデ外の立入禁止エリアで滑走していた。当日2回目のコース外滑走の際、3名は先に進んでいたが最後尾の1名(東京在住の中国籍30才、女性)がついて来ないのに気づき、携帯電話で確認したところ、「1回目の滑走でコースは分かるので合流する」とのことで、3名は先に下山したが女性が下山しないことから、17時頃警察に通報した。警察や地元遭対協が捜索したが当日は22時で捜索を終了し、翌6日早朝から再開したが、天候が悪化したため10時ころ中断した。7日県警山岳救助隊により捜索再開し、11時20分頃遺体を発見し、8日午前県警ヘリで収容、行方不明となっていた女性と判明した。	①事業者からの報告 ②3/6,7,8 長野放送web 3/6,7,8,9 信濃毎日新聞
3						

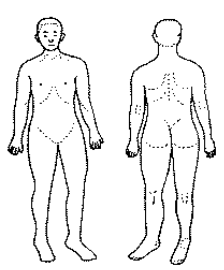
資料2 過去19年間のスノースポーツ死亡者数推移



資料3 傷害調査用紙

スキー場控

スキー場名 _____ 2022年2月スキー場傷害調査用紙 No. S・B -

① 負傷日時	2022年 月 日 ()		② 天候 ① 晴 ② 曇 ③ 雪 ④ 雨 ⑤ その他	⑤ 用具 スキー ① アルペンスキー ② スキーボード (100cm未満) ③ テレマークスキー ④ クロスカントリースキー ⑤ その他スキー () ボード ⑥ フリースタイルスノーボード ⑦ アルペンスノーボード ⑧ その他のスノーボード ソリ ⑨ 子供用ソリ ⑩ 腰掛けソリ ⑪ 立ち乗りソリ ⑫ その他のソリ () その他 ⑬ 具体的に ()
	① 午前 ② 午後 時 分 (24時制で記入してください)			
③ 負傷者	あrika 氏名		④ 住所 (〒 -) 都道府県 TEL - -	
	① 男 ② 女	年齢 () 歳		
外国人の場合 国名: ()				
⑦ 受傷原因 自分で転倒 人と衝突 人以外と衝突 その他 ① バランスを崩して ② 転倒・滑落 ③ スキーヤーと衝突 ④ 立木 ⑤ 岩・石 ⑥ ネット ⑦ 具体的に記入 ⑧ ジャンプの失敗 ⑨ トリックの失敗 ⑩ ボーダーと衝突 ⑪ リフト支柱 ⑫ 看板・標識 () ⑬ 逆エッジ転倒 ⑭ その他 () ⑮ その他の人 () ⑯ その他 () ⑰ 原因不明				
⑧ 傷害の部位と種類 傷害の部位と種類を下の表より選り番号で記入して下さい。 ※複数ケガの場合は、傷害の重い順に記入して下さい。 傷害重傷順に記入 1番 2番 3番 4番 (部位番号は1枠1ヶ所) 傷害の部位 左・右・該当無 左右無 左右無 左右無 左右無 傷害の種類				
⑨ 傷害の程度 ① 軽傷⇒さほど必要なし ② 中等傷⇒必要あり ③ 重症⇒緊急に必要 ④ 死亡		⑩ 頭の強打った疑い ① 有 ② 無 ⑪ ヘルメットの着用 ① 有 ② 無		
⑪ 技能 ① 初めて ② 初級 ③ 中級 ④ 上級 ⑤ その他		⑫ 相手のケガのための賠償責任保険に ① 加入している ② 加入していない ③ わからない		
⑬ 部位 ① 頭 ② 顔 ③ 首 ④ 胸 ⑤ 背中 ⑥ 腹 ⑦ 腰 ⑧ 臀部 ⑨ 股間 ⑩ 肩 ⑪ 上腕 ⑫ 肘 ⑬ 前腕 ⑭ 手首 ⑮ 手部 ⑯ 手指 ⑰ 大腿 ⑱ 膝 ⑲ 下腿 ⑳ 足首 ㉑ 足部 ㉒ 足指 ㉓ その他 ()		⑭ ケガの部位に×印をつけて下さい 		
⑮ 種類 ① 捻挫(靭帯損傷を含む) ② 骨折 ③ 打撲 ④ 切挫創(さきぎざ・すりきざ) ⑤ 脱臼 ⑥ その他 ()		⑯ 雪面状況 ① スムース(圧雪) ② 乾雪 ③ ラフ(不整備) ④ 湿雪 ⑤ コブ ⑥ アイスバーン ⑦ 深雪 ⑧ ザラメ雪 ⑨ その他 ⑩ その他		
備考				
⑰ 衝突の相手 ① 確認(している場合は下記を記入してください) ② 不明 氏名 _____ 性別(男・女) 住所 _____ TEL _____				
＜ 以下は被疑関係者が記入してください ＞				
⑱ 搬送方法 ① 事故現場→救護室・駐車場 ② アキヤ ③ スノーボード ④ スノーモービル ⑤ 自分で ⑥ その他 ⑦ 救急処置後の行動 ⑧ 病院へ(病院名:) ⑨ その他() ⑩ スキー場→病院: ⑪ 救急車 ⑫ スキー場関係の車 ⑬ 負傷者関係の車 ⑭ ヘリコプター ⑮ その他 ⑯ 飲酒: ⑰ 有 ⑱ 無				
搬送者氏名 _____		処置者氏名 _____		
記録者氏名 _____		記録 2022年 月 日		

※ 該当する番号に○印、✓印または文字・数字を記入してください。
 ※ 右上のNo.S・Bは、スキーヤー(S)・スノーボーダー(B)に分けて各々1から番号を付けてください。
 ※ この調査用紙は全国スキー安全対策協議会のスキー場傷害報告書作成以外の目的には使用いたしません。
 ※ 負傷者および衝突の相手の氏名・住所は複写されません。

ご協力ありがとうございました
 全国スキー安全対策協議会

資料4 全国統一スキー場標識及び標示マーク等色刷一覧表

全国スキー安全対策協議会

<p>A 禁止標識 危険な事態を避けることを目的とした標識で、ある特定の行為を禁止するもの。</p> <p>禁止の基本様式 中央に黒い図記号(又は字句)</p> <p>① 立入禁止 ② 歩行禁止 ③ スノーモビル等禁止 ④ スキー滑走禁止 ⑤ 講習禁止 ⑥ ポール禁止 ⑦ スノーボード禁止 ⑧ 飛び降り禁止 ⑨ 搬器を揺らすな (⑧、⑨はリフト標識に使用される)</p>	<p>B 注意標識 注意すべき状況を知らせる為の標識で、警戒して慎重な行動をとるよう求めるもの。</p> <p>注意の基本様式 中央に黒い図記号(又は字句)</p> <p>① 危険・注意せよ ② 注意してユックリ行け ③ 凸凹あり ④ 整備車両に注意せよ ⑤ ガケあり ⑥ 右に(左に)合流する ⑦ 分かれる ⑧ じくざぐコースとなる ⑨ 左(右)急カーブとなる ⑩ せまくなる ⑪ 橋あり ⑫ 急斜面となる (斜度数字の有無は選択とする) ⑬ 林間の下りとなる ⑭ 降りる準備をせよ ⑮ 降りたら直進せよ(A) ⑯ 降りたら直進せよ(B) (⑭、⑮、⑯はリフト標識に使用される)</p>	<p>D 注意旗 避けるべき危険の有ることをポール・張繩等に標示し、接近や進入等を制止するもの。</p>
<p>E 救護関係の標示マーク 救護施設・救急連絡所・バトロール員等を使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、案内図等で単色標示する場合は、外形を円か四角かで区別する。</p> <p>① バトロール バトロール連絡所 ② 救急診療所</p>		
<p>F コースの難かさを表わす色と形 指路標や案内図に用い、コースを選ぶときにヒントを与えることでスキーヤーの安全を図るもの。通常、色と形を併用した標示を基本とする。但し、状況に応じて色のみを用いて表す方法と、形のみを用いて表す方法と、その何れの使用も許される。</p> <p>① 上級コース ② 中級コース ③ 初級コース</p>		
<p>C 指示標識 安全の確保を目的に秩序の維持を図る標識で、ある特定の行為の許容やそのルート・区域等の指定を示すもの。</p> <p>指示の基本様式 中央に白い図記号(又は字句)</p> <p>① 講習よし 講習指定区域 ② ポールよし ポール指定区域 ③ 歩行よし 歩行者指定通路 ④ スノーボードよし スノーボード指定区域</p>		

1. 理解しやすくするために、標識に簡潔な字句を加えることが許される。その際、標識の板面内に記入する方法と、補助板に記入して添える方法とがある。
2. 状況により、標識の板面中央に記載する図記号を、簡潔な字句に代えることが許される。

(平成3年7月改訂版)

2021/2022 シーズン スキー場傷害報告書
2022(令和4)年6月発行

発行所 全国スキー安全対策協議会

《事務局》

〒111-0056

東京都台東区小島2丁目18番15号

新御徒町妙見屋ビル3階

一般財団法人 日本鋼索交通協会内

TEL 03-3866-3163

FAX 03-3866-3164

<http://www.nikokyo.or.jp/pages/36/>

e-mail jfta@nikokyo.or.jp

(無断転載禁止)